四日市市の将来都市像に関する
調査特別委員会

（令和４年11月11日）

１３：３０開議

○　樋口龍馬委員長

定刻でございますので、始めさせていただきたいと思います。

なお、笹岡委員におかれましては、若干遅刻をされるというふうに聞いておりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、四日市市の将来都市像に関する調査特別委員会を開会させていただきます。

それでは、インターネットの中継を始めてください。

事項書に従いまして進行させていただきます。

まず、前回資料の請求がございました。ただ、この資料の請求が笹岡委員からの請求でありましたので、順番を後にさせていただこうかな、そのほうがいいですよね。皆さん、そのような進行でもよろしいですか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

ちょっと項目の順番を、入替えをさせていただきたいと存じます。

では、本日も前回同様、まとめの部分について議論を進めてまいりたいと思います。

先回は１番から５番まで進めさせていただきました。５番までのまとめについて、皆様のお手元のほうに資料の配付がございますので、そちらのほうをお開きいただきたいと思います。

論点整理（案）、皆様、開くことは可能でございましょうか。皆様、お手元資料、よろしいでしょうか。論点整理（案）であります。

前回、これもちょっと実は笹岡委員とのやり取りの中での議論でございますが、ちょっと遅参ということですので、こちらで、皆さんで確認をさせていただきたいと思います。

（１）の③物流と人流が互いに安全に共存できる動線確保のためと。前回は、物流と人流をすみ分けるということを端的に記しました。それは、将来的に分かれていくのは分かるんだが、いきなりすみ分けを図るということではないよねという確認が入りました。読めるということであれば私はいいんですけれどもというふうに笹岡委員からはご提案いただいたわけでございますが、報告書というのは、読み手が必ずしもそのように読んでくれ

るというふうに期待するべきものではございませんので、より詳細に記したほうがよいであろうということで、正副のほうで検討いたしまして、事務局とともにこのような文言に直させていただきました。

もう一度読みます。

物流と人流が互いに安全に共存できる動線確保のためのすみ分けを計画的に進めるとともに、東海環状自動車道や北勢バイパスの全線開通によって四日市港の背後圏がさらに広がることで、その背後圏の経済を支える四日市港のさらなる物流機能強化に向けた施策が必要であるというふうに記させていただきました。

こちらの文言については、加納委員からも、かえって分かりにくくなるんじゃないかというようなご指摘もあったんですが、いかがでしょうか。

○　加納康樹委員

確認だけです。

これでいいと思いますが、正副委員長への確認としては、こういうふうに文言も変えたので、あえて霞ヶ浦地区、四日市地区というのも消したということでよろしいですね。

○　樋口龍馬委員長

前回もあったように、霞ヶ浦地区を物流、千歳地区を人流というふうにしっかりすみ分けをしてしまうと、現在行われている人流、物流の交差について解決ができないんじゃないかとか、矛盾が生じるのではないかという指摘でありましたので、削除をさせていただいたというところでございます。

では、続けさせていただきます。

（２）についてまでは、前回確認を既になされておりますので、飛ばさせていただきまして（３）であります。

読み上げます。

国が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、本市産業においても、温室効果ガスの削減や新エネルギーへの転換など、社会情勢の変化や法改正等への柔軟な対応が求められる。産業都市四日市の持続的な発展のために、産業界、国、県との連携が今後ますます重要となる。

戦後の四日市を支えてきた石油コンビナート等の産業は、今後の本市の成長、発展にな

くてはならない。砂浜を埋め立て、緩衝緑地を設け、工場敷地の緑地率を厳しく制限してきたことなど、これまでの歴史も踏まえた施策の検討が必要である。また、環境保全と産業振興を両立していくという本市の考え方を、市民、企業に対し、将来に向けて明確に示す必要がある。

四日市港、伊勢湾をきれいな海にし、市民が自然に親しむことができるように、本市を含めた産官学の多様な主体が連携、協働し、多くの市民を巻き込んでブルーカーボンの事業に取り組む仕組みづくりが必要である。

市内陸部への企業立地の傾向は今後も想定される。鈴鹿山系から伊勢湾に至る本市特有の豊かな自然環境を守るため、グリーンカーボンの視点を持って、周辺の農地や里山等の保全と併せた産業振興施策が必要である。なお、（３）の③ブルーカーボンの事業と組み合わせることにより、炭素循環に対応した施策のさらなる効果が期待できる、というところでございますが、この（３）の環境と産業の調和がとれたまちづくり、ここについて、皆様がご議論いただいたところ、そして、過去の議論の中から、皆様が合意いただけそうな文言については、こちらのほうに整理をし、記載をさせていただいたところでございます。

（３）についてご意見のございます方は、挙手にて発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

○　山口智也副委員長

副委員長という立場で、ここで発言するのも申し訳ございませんけれども、実は一昨日、昨日と、ちょっと四日市港管理組合議会のほうの視察でブルーカーボンの勉強に行かせていただいたんですけれども、荻須委員も三木委員もここにおられますのでご承知かと思いますけれども、ブルーカーボンの取組、③の部分なんですけれども、この内容に加えまして、今後、国の取組というところもまた始まってくるという動きもありますので、今後の国の動向も注視しながらというところも、非常に重要なところかなと感じました。

ですので、必要であればそういったところも盛り込む必要もあるのかなというふうに感じまして、発言させていただきました。

○　樋口龍馬委員長

というと、この④の中に入れ込むのか、①の2050年のカーボンニュートラルの実現のと

ころに絡めて記載するのか、四日市港管理組合議会の視察に行かれた皆さんがどんなような今印象をお持ちかというところを集約したいと思います。

○　山口智也副委員長

私、③のところに、本市を含めた産官学の多様な主体が連携、協働し、その辺りに、「また、今後の国の取組も注視しつつ」というような形で、どこかにそういった内容を入れられないかなというふうに思っております。

○　樋口龍馬委員長

昨日、一昨日と視察に共に行かれた三木委員、どうぞ。

○　三木　隆委員

副委員長の言われるとおり、３番のところ、これ、ブルーカーボンに関しての国の制度という部分ですので、３番のところが適切かなと感じています。

○　樋口龍馬委員長

そこに「国の動向を注視し」というような文言を入れるということですね。

荻須委員、いかがですか。

○　荻須智之委員

賛成です。それが収まりがいいかなということで、うまく指摘していただいたと思います。

○　樋口龍馬委員長

他の委員の皆様、いかがでしょうか。

議論の中には上がってございませんが、国の動向を注視していくという点については必要な事柄であるかなというふうに委員長も考えますが、文言の追加をしてもよろしいですか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

では、そのようにさせていただきます。

またこの修正点については、後日、線を引いた状態で皆様の目に届くように、修正をさせていただきたいと存じます。

その他の部分、よろしゅうございますか。

○　早川新平委員

４番の、この本市特有という、特有って要るのかなと思いながらずっと見ておったんやけど、要は伊勢湾から山間部まであるという意味の特有なのか、本市の豊かな自然環境でもいいのかな。特有というのを、そこへ特出しせなあかんのかなというのがちょっと疑問であって、発言をさせていただきました。

○　樋口龍馬委員長

この本市特有は、どなたか委員からの話だったですかね。

○　三木　隆委員

私の意見じゃないですけど、二級河川、大きな川が流れ込んできているのに近いとなっておったら四日市港だという認識でおるので、この表現でいいのかなと思っているんですけどね。

○　樋口龍馬委員長

事実として鈴鹿山系と伊勢湾が直結している、東西横断している市というのは四日市市のみになるんですかね。桑名市は鈴鹿山系にはつながっていないですよね。

（発言する者あり）

○　樋口龍馬委員長

鈴鹿市は海までつながっていますね。そうすると、特有と書いてしまうと特有じゃないのかもしれないという話になりかねないというか、可能性としてはあるので、特有と書か

ずとも読めるということであれば、この特有だけ外させてもらうというのも一つかなというふうにも思いますが、三木委員、いかがでしょうか。

○　三木　隆委員

こだわりはないんですが、特徴的にここは四日市港とは相反するところもあるか分からないですから、そこは委員長に任せます。

○　樋口龍馬委員長

では、恐れ入りますが、この部分については、本市の豊かな自然環境というふうに、「特有」については削除をさせていただきたいと思います。

○　加納康樹委員

別に削除でも全然問題ないと思うんですけど、委員長からちょっとありましたけど、特有という表現が、私たちの委員会の中でそういう発言があったのかどうか、ちょっと精査していただいて、そこから引っ張っているものであれば消すのは忍びないなと。

○　樋口龍馬委員長

消すに当たっては、発言をされた委員さんの意図を汲んでということですが、小林さん、どうでしたか。

○　小林議会事務局主事

事務局、小林です。

特有という言葉があったかどうかはちょっと定かではないんですが、元の意見と思われるのが、それこそ早川委員が言われていたのが、海だけでなくて山のほうも含めて自然環境だと、そういう豊かな自然を形成するのが必要であるというような意見がございましたので、その点を反映させていただいたところかと思います。すみません、特有という言葉が入っていたかどうかは、ちょっと確認してみなくては何とも言えないんですけれども。

○　樋口龍馬委員長

この文言を取りまとめるに当たっての根拠となる発言が早川委員に起因するものである

ということでありますので、特有については削除をさせていただくということでご了承をお願いいたします。

ただいま笹岡委員が入室をされました。

○　笹岡秀太郎委員

遅くなりました。

○　樋口龍馬委員長

ここまでに確認した事項について、おさらいを若干させていただきたいと思います。

四日市市の将来都市像に関する調査特別委員会、本日ついております四日市市の将来都市像を議論する上での論点整理（案）中の、（１）③の部分でございます。

こちら、先日、笹岡委員のほうから、物流、霞ヶ浦地区と、人流、四日市地区のすみ分けというふうに明記したことによって、突然に区切りをぶつっとすることになるのかというご指摘がございました。そうでないのであれば、そういうふうに読めるような文言に修正するというのも検討したらどうだというご意見の基に作文をさせていただきました。

読み上げます。

物流と人流が互いに安全に共存できる動線確保のためのすみ分けを計画的に進めるとともにというふうに修正をさせていただきました。その修正の説明の折に、加納委員から、霞ヶ浦地区と四日市地区という部分についてもあえて削除したのかというご質疑があり、これについては、現状、霞ヶ浦地区での物流、人流の交流、そして、千歳地区での物流、人流の交流があるというところから、ここにあえて地区を明記することによって複雑になることを避けるため、「四日市地区」、「霞ヶ浦地区」という文言については削除させていただいたという旨を報告させていただき、皆さんにこの修正を了としていただいたところでございますが、そもそもの修正に至った経緯の中に笹岡委員の発言がございましたので、笹岡委員、この修正でよろしゅうございましょうか。

○　笹岡秀太郎委員

発言の中では分かりやすく説明するようにしましたけれども、整理していく中で皆さんがまとめていただいたので、これで結構だと思います。

○　樋口龍馬委員長

ありがとうございます。そのように修正をさせていただきました。

また、今、（３）について、国が掲げる2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、本市産業においても温室効果ガスの削減や新エネルギーへの転換など、社会情勢の変化や法改正等への柔軟な対応が求められる。産業都市四日市の持続的な発展のために、産業界、国、県との連携が今後ますます重要となる。

②戦後の四日市を支えてきた石油コンビナート等の産業は、今後の本市の成長、発展になくてはならない。砂浜を埋め立て、緩衝緑地を設け、工場敷地の緑地率を厳しく制限してきたことなど、これまでの歴史も踏まえた施策の検討が必要である。また、環境保全と産業振興を両立していくという本市の考え方を、市民、企業に対し、将来に向けて明確に示す必要がある。

③四日市港、伊勢湾をきれいな海にし、市民が自然に親しむことができるように、本市を含めた産官学の多様な主体が連携、協働し、多くの市民を巻き込んで、ブルーカーボンの事業に取り組む仕組みづくりが必要であるというふうにあるんですが、この③の中で、先日、四日市港管理組合議会が県外視察に行かれた折に、ブルーカーボンを視点とした視察内容であったと。その中で、今後の国の動向について、非常に興味深く研究する機会があったということで、この③の中に、「今後の国の動向を見極めつつ」ですとか「注視しつつ」といったような文言を追記してはどうかという提案が副委員長からなされ、視察に参加をされた荻須委員、三木委員からも同様に賛同のお声をいただきました。これをこの会議で諮ったところ、皆様も追記について異議なしということでございますので、追記をさせていただくという確認をさせていただいたところでございますが、笹岡委員、いかがでしょうか。

○　笹岡秀太郎委員

了解です。

○　樋口龍馬委員長

次に、④、先ほど議論をしていたところでございますが、市内陸部への企業立地の傾向は今後も想定される。鈴鹿山系から伊勢湾に至る本市特有の豊かな自然環境を守るため、グリーンカーボンの視点を持って、周辺の農地や里山等の保全と併せた産業振興施策が必

要である。なお、（３）③のブルーカーボンの事業と組み合わせることにより、炭素循環に対応した施策のさらなる効果が期待できるというふうに記させていただいたんですが、鈴鹿山系から伊勢湾に至る本市特有と、あえて特有と特記する必要があるのかというような指摘が早川委員からあり、ここについては削除をさせていただくということになりました。

その主たる理由は、④を記述させていただく根拠となる発言が早川委員からなされておりましたので、早川委員の本意の中にそういった特有ということが含まれていないということでございましたので、削除をさせていただいたという経過でございます。

笹岡委員、よろしいでしょうか。

○　笹岡秀太郎委員

はい。

○　樋口龍馬委員長

その他（３）につきまして、ご意見等ございましたら、挙手にて発言をお願いいたします。

特によろしいですか。

○　加納康樹委員

ちょっと確認しようと思っても確認し切れなかったので口頭で言いたいと思います。

（３）の②のところの２行目終わりあたり、「緩衝緑地を設け、工場敷地の緑地率を厳しく制限してきた」と書いてあるのですけど、四日市のコンビナートの場合、法を超えて緑地率を厳しくしていたんでしたっけ。

○　樋口龍馬委員長

法を超えて厳しくしておりましたので、その点について、事務局、説明できますか、今。ちょっと難しいか。

過去に規制された率のままずっと継続をしており、その後、国が規制を緩和した後もその緑地率を維持していたという点で、より厳しく規制をしており、何年前だったかな、２年、３年ぐらい前に緑地率を下げるという議案が提案をされてという経過があったように

委員長は記憶をしております。

○　加納康樹委員

分かりました。そういう意味での厳しくであれば了解でございます。

○　樋口龍馬委員長

事実の確認でありますので、荒木部長、記憶はございますか。

荒木部長、お願いいたします。

○　荒木政策推進部長

私がちょうど商工農水部長をしていたときの議案でございました。委員長おっしゃっていただいたとおり、国や県に上乗せして緑地率を制限してきたという経緯でございます。

○　加納康樹委員

分かりました。

それと、もう一つ、これもちょっとよく分かっていないので確認だけですけど、②のところ、戦後の四日市を支えてきた石油コンビナート等というこの表現ですけど、四日市としては石油コンビナートと呼んでいるんでしたっけ、石油化学コンビナート、どっちで呼んでいるんでしたっけ。

○　樋口龍馬委員長

呼称について確認であります。

これまた荒木部長、お答えできますでしょうか。荒木部長、お願いします。

○　荒木政策推進部長

本市といたしましては、石油化学コンビナートというような呼び方をしてございます。

○　樋口龍馬委員長

そのようなことでございますので、この「石油コンビナート」の文言を「石油化学コンビナート」と修正させていただきたいと思いますが、皆様、よろしゅうございますか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

そのように修正をさせていただきます。

他にございますでしょうか。（３）についてはよろしゅうございますか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

（３）については、この程度とさせていただきたいと思います。

資料請求をなさいました笹岡委員が入られましたが、もうここまで進めてまいりましたので、（５）までは通させていただいて、その後に資料の説明に入りたいと思います。執行部の皆さんもご協力をお願いいたします。

（４）でございます。健全な財政を維持するためのまちづくりであります。

前回、「豊かな財政」という表現をしておりまして、その中で、国や県であるとかというところからの取付けも必要じゃないかという文言がこの中に包含されてしまうと、豊かなというと、自律的な財政のことを指す部分の色が強くなるので修正をしたほうがよいのではないかと、これ、笹岡委員のほうからご指摘があり、まさにそのとおりであるというふうに委員会の中で総意が取られましたので修正をしてまいりました。「健全な財政を維持するためのまちづくり」というところでございます。これは文言としても前回出させていただいて、ご確認をしていただいておりますが、見え消しで出すことによって明確にさせていただきましたが、この修正でよろしいですか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

改めて確認を取らせていただきました。

ですので、この（４）については「健全な財政を維持するためのまちづくり」と、今後記させていただきます。

①四日市港や中心市街地等におけるハード整備、公共交通の維持・確保、市域全体での環境保全など、各種施策の実現には多くの予算が必要となる。そのためには、本市の産業を活性化し、魅力あるまちづくりを進めることで若い世代の定住を促進するなど、税収の確保につなげる施策展開が必要である。

②多くの予算が必要な施策の実現には、国、県からの補助金交付が不可欠である。また、補助金の交付だけでなく、国等から本市施策への協力が得られるように、日頃から国等への働きかけを継続的に行っていく必要があるという点に集約をさせて、幾つかの議論がある中で、近似しているものについては集約させていただき、作文によってつなげたほうが分かりやすいものについては作文をして、つなげさせていただいたところでございます。

この文言について、文章、欠けているよとか、ここについては余計であるよという点等、ご意見がございましたら集めたいと思いますので、挙手にて発言を願います。

よろしいですか、このままで。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

一旦このままで、じゃ、進めさせていただくという確認を取らせていただきました。

委員長、ちょっと口が早いよというのはあります。もうちょっとゆっくり読んだほうがいいですか。大丈夫ですか。じゃ、あのようなテンポで続けさせていただきます。５番まで来て言うなという話ですけど。

（５）に参ります。若者をはじめ多世代が集う賑わいあるまちづくり。

現在検討中のＪＲ四日市駅前への大学設置に当たっては、設置に向けた協議等における国、県との連携はもちろん、必要な土地の確保や人材育成、開学後の研究などの面で民間事業者の協力が不可欠である。今後様々な課題を解決し、本市の活性化とにぎわいの創出に資する事業とする必要がある。大学の設置に関しては、産業都市四日市の特性に応じた地域人材が育成できる学部、学科の設置が求められる。

②市民と行政が一体となってスポーツを支援し、誰もがスポーツに親しめるような、スポーツの力を活かした地域活性化のための施策展開が必要である。例えば、プロスポーツ等のチームの本拠地を誘致し、現在の包括連携協定にとどまらない積極的な支援を行う「スポーツホームタウン」を推進することにより、トップスポーツに触れる機会の創出、

スポーツへの機運やチームへの愛着の高まり、まちの魅力向上につながることが考えられるというふうに記させていただきました。

なお、①の中にございます大学の設置なんですが、当特別委員会が議論をスタートした折には、高等教育機関という文言で議論をしてまいりましたが、現在も皆様と議論させていただいても、行政の説明等を聞きましても、高等教育機関ではなく大学というふうに一定限定をした上での議論が進められていることから、こちらの文章も大学に置き換えをさせていただいたところであります。

この（５）につきまして、ご意見等ございます方は、挙手にて発言をお願いいたします。

○　笹岡秀太郎委員

この①のところなのですが、大学設置に当たってはとなると、既に大学を設置するんだというイメージなんだけど、例えばＪＲ四日市駅前も、これ、まだ案の段階ではないかなと。そうすると、現在検討中のというところで触れているけど、大学設置に当たってはというところは、大学設置案についてはとか、その辺をちょっと一つしておかんと、正式にここで設置をする方向で議論しようということになったんでしたっけ。

○　樋口龍馬委員長

これについては、今、笹岡委員が指摘されたような状況ではなくて、設置に向けた取組を今、四日市市が始めておるというところでございます。

○　笹岡秀太郎委員

じゃ、当たってはじゃなくて、大学設置に向けてはと。当たってはというとちょっともうこれ、決め事になっちゃうよね。

○　樋口龍馬委員長

というご指摘がございました。

委員の皆様、いかがでしょうか。

○　笹岡秀太郎委員

理事者に確認して。もう設置は決定事項ですか。

○　樋口龍馬委員長

理事者に確認でございます。

この文章の書きぶりでいってしまうより、向けてというような書きぶりに変えたほうが現在の行政の状況に適しているというか、近しいのではないかと、状況にはまっているのではないかというご指摘でございますが、荒木部長、お願いします。

○　荒木政策推進部長

笹岡委員おっしゃっていただいたように、今、大学の設置、誘致に向けて、あらゆる方策を検討しているということでございますもんで、それが正式に決まったわけではございません。したがいまして、私どもとしましては、委員長からのご意見でございますが、設置へ向けてはと、笹岡委員がおっしゃったようにしていただけるほうが現状にふさわしいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○　笹岡秀太郎委員

そうすると、その後の設置に向けた協議等と、向けた向けたが幾つか重なってくるので、その辺は委員長のほうで整理していただくとして、やはり今、理事者の説明があったとおりの視点で、この現時点では表現すべきかなという思いがあります。

○　樋口龍馬委員長

皆様そのような形で作文の修正の提案がございましたが、向けて向けてが重なる部分もありますし、ただ単純に削除して、「向けた」を「向けて」に変えても、後ろの書きぶりに若干のこそあど、てにをはが変わってこなきゃならないのかなというふうに思いますので、修正を一定かけていく必要がございます。

それも含めて、修正をかけるということでよろしゅうございましょうか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

では、そのように正副のほうで修正をさせていただきますが、その他文脈の中で、てにをはが変わることによって多少の受け止めは変わるとはいえ、大きく文言の変更をする予定はないんですが、文章の意図等の指摘が引き続きございましたら、併せてご指摘をいただきたいと思いますが、いかがですか。

○　笹井絹予委員

２番のスポーツホームタウンって、そういう言葉があるんですか。

○　樋口龍馬委員長

ホームタウンの包括連携協定というのがございまして、市の施策で、実際に。現在は、パールズさんとヴィアティンさんがホームタウンの協定を結んでみえます。そういう政策がございます。

○　笹井絹予委員

分かりました。ちょっとそういう言葉があるのかどうかお聞きしたかっただけですので。

○　加納康樹委員

②のほうへ行ってもいいの。

○　樋口龍馬委員長

①について、皆さん、よろしいですか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

②については、加納委員が前回、体育館の大会の日程押さえなどという話がありましたので、なるだけ踏み込んだ形で、かつ上手に書けやんかなと思って苦労してみました。

○　加納康樹委員

②のほうで、まさに今、笹井委員からもご指摘がありましたけど、すごくこれ書いてく

れて、私としては大変ありがたいんですが、このスポーツホームタウンというところにかぎ括弧までつけてもらうと、何かこそばゆくなってくるので、かぎ括弧までなくてもいいかなみたいな感じで思っているんですが。

○　樋口龍馬委員長

事務局の思いとしては、個別の施策なので、施策を抜いたという形なのかなというふうに自分は理解をしておったんですが、皆さんが外してもよいのではないかということであれば、必ずしもつけなければならないという決めがあるものではございませんので、外させていただきたいと思いますが。

この括弧について、今、発言者の加納委員のほうから、外してはどうかという提案がございました。このかぎ括弧を外すことについて、ご異議ございませんか。

○　早川新平委員

俺は分かりやすくて、逆に四日市の姿勢が分かるので、思いの強さがあると、僕は別にあってもいいと思っているんだけどね。こだわりはせんけど、遠慮することもないし、現実にホームタウンの協定を提携しておるのやで、遠慮される必要はないと思います。これは私の意見。

（発言する者あり）

○　樋口龍馬委員長

外す必要なしという表明がございました。

外すべきというご意見のある方がおみえになれば討論になるわけですが、特段なければ外さずにおかせていただきましょうか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

では、そのようにおかせていただきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

では、ちょっと振り返って、前回の（１）から含めて追加したいよという事柄がもし現

在の時点であればご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょう。

例えば、（２）については、今日は前回の修正がなかったので、特に触れずに流してございますが。

この後もまた集めさせていただきますので、皆様のほうでご一読いただいてということでよろしゅうございますか、本日のところは。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

では、本日のところは、この（５）まではこの程度とさせていただきたいと思います。

それでは、前回の委員会の折に資料の請求がございましたので、追加資料についての説明を求めます。

○　矢澤政策推進課長

政策推進課の矢澤です。よろしくお願いいたします。

資料につきましては、002の追加請求資料をお開きください。

まず、１ページ、目次がありますが、２点資料請求をいただきました。

四日市地区周辺の公衆トイレの設置状況というところと、先日、四日市市も参画いたします、みなとまちづくり協議会で実施いたしましたＹＯＫＫＡＩＣＨＩ　ＢＡＵＲＡ　ミーティングの概要についてご報告させていただきます。

１枚めくっていただきまして、６分の１ページになります。

四日市港、四日市地区周辺の公衆トイレの設置状況というところで、まず、都市計画区域になりますが、納屋防災緑地に２か所のトイレというところと、稲葉翁記念公園、こちらにトイレがあります。あと、四日市港の港湾区域といたしましては、四日市港の埠頭ビルというところのトイレと、前の四日市港管理組合の事務所の向かいにあるみなと公園のところにトイレというところで、５か所ということになっております。

続きまして６分の２、次のページ、第１回のＹＯＫＫＡＩＣＨＩ　ＢＡＵＲＡ　ミーティングの概要でございます。

開催日は先月の16日というところで、開催場所、四日市港四日市地区と、稲葉翁記念公園、納屋防災緑地も含めるというところでございます。

主なイベント概要ですが、まずは、納屋運河のほうでスタンドアップパドルの体験会を実施いたしました。こちら全６回で各回５名というところで、30名の方に参加いただきました。実際の申込みは、下に欄がございますが、146名の方に申込みいただいたんですが、抽せんの結果30名の方に参加いただいたというところです。

２点目は、四日市港管理組合の持っておりますゆりかもめの遊覧です。こちらも募集、下にございますが、545名の方に申込みをいただきましたが、実際、全５回、各回25名というところで、125名の方に参加いただきました。

３点目が、納屋防災緑地で行ったんですが、ミニセミナーというところで、前半、後半の２部構成で２人の講師をお招きいたしまして、四日市港の魅力と可能性、水辺のまちづくりについてのセミナーを各回50名の方に参加いただきまして実施いたしました。

第１部ですが、「四日市港の産業景観～その魅力と可能性」というところで、近畿大学の理工学部の岡田先生にご講演いただきました。みなとまちづくり協議会の中の分科会にもご参画いただいております。産業の集積する本市における四日市港ならではの特徴的な景観、こういったものの魅力を参加者とともに再発見するようなセミナーとなっておりました。

続きまして、６分の３ページ、次のページをお願いいたします。

第２部が「いまこそ水辺のまちづくり」というところで、水辺総研代表取締役ということで、四日市出身の建築家の方なんですが、岩本さんという方にお話をいただきました。水辺エリア、最近その魅力が見直されておるというところでございます。こういった水辺エリアに、運河にホテルを浮かべたり、桟橋が流された跡の水上に、劇場や公園に使える人工島を造るといった海外の事例、また、国内、横浜の事例になりますが、桜木町、鉄道の最寄り駅をロープウェイでつなぐなど、常識にとらわれない事例の紹介を通じまして、新たな価値創造に取り組む意識醸成をするようなセミナー、こういったところでやることも大事ですけど、そういったやる環境をつくることはもっと大事だよというようなセミナーでございました。

次がウオークラリー、「四日市港　楽習さんぽ！」というふうな形で、先ほどの近畿大学の岡田先生のところの学生さんと四日市大学の学生さんが、実際に四日市港を歩いていただいて、ウオークラリーのマップを作っていただきました。四日市港にまつわる謎解きを行いながら行うウオークラリーというところで、250枚のマップを用意したんですが、全部配布し終わったというところでございます。

４番ですが、全体の参加人数は約2000人というところです。

５番に、参加いただいた方の感想を抜粋で挙げさせていただいております。前段、２ぽつ目から４ぽつ目は、もっと来やすくなるようになってほしいとか、イベントがないとなかなか来ることがないとか、イベントであった漁協組合の即売会がすぐ終わって残念とか、課題につながるようなご意見というところと、あとは、町並みがきれいとか、癒やされる風景、景色がよかったとか、潮吹き防波堤を海の上から見ることができてよかった、景色に関するような感想。あとは、四日市にこんな場所があったとか、運河周辺が楽しめることが分かったとか、四日市に住んでいましたけど新たな発見があったとか、海がこんなに近いことが意外だったとか、新たな発見につながるようなご意見、大半は好意的なご意見をいただいたのかなと思っております。

続いて、６分の４ページが当日の様子でございまして、上のほうが納屋防災緑地のパンの即売会であったり、漁協の即売会の様子であったり、セミナーの様子ですね。下が実際にＳＵＰを体験していただいている様子でございます。

最後、２ページにわたりまして、当日に向けたチラシのほうを参考に上げさせていただいておりますのでご参照ください。

説明は以上でございます。

○　樋口龍馬委員長

ご説明はお聞き及びのとおりでございます。

まず、公衆トイレについてというところで、これ、笹岡委員からの資料請求でございました。

○　笹岡秀太郎委員

資料ありがとうございました。

トイレをなぜ心配したかというと、霞ヶ浦地区のほう、例えば釣り公園とか、それからシドニー港公園あたりにはしっかりとしたトイレが整備されて、じゃ、一方の、人を寄せようとしている旧港のあたりに、どれぐらい配慮がされているのかということで比較したいなとの思いで言ったんですけど、今、これから人をあそこに集めようとするとこれで足りますか。

○　矢澤政策推進課長

実際、ＢＡＵＲＡ　ミーティングの際も、納屋防災緑地の近隣の企業様のご協力、駐車場という面でご協力いただいたところもあります。イベントについては、一旦このトイレで何とかいけたというところがあります。ただ、今後、常設的に何かをやっていこうとすると、やはりトイレの数というのは不足してくるところもあろうかと思いますので、それはそういう段階の中で、近隣の企業さんも、そういうトイレのご協力というところもいただきながらも、やっぱり常設ということが必要であれば、その際はまた四日市港管理組合と協議しながら新たなトイレというのも検討していかなきゃいけないのかなというふうには感じております。

○　笹岡秀太郎委員

その視点でしっかりと取り組んでいただいて、やはりそういう公共のものが、そこにしっかりしたものが整備してあるとなれば、当然人も集まってきやすいから、ぜひその視点をしっかりと持ち続けてやってください。

以上です。

○　樋口龍馬委員長

このトイレの部分について、どなたか何かございますか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

特にないようですね。

では、次の資料に進みたいと思います。

こちらについても笹岡委員からのご発案で、せっかくここで触っている部分ですので、行政主体ではないとはいえ、簡単な速報がもらえるとありがたいという声に応えて、速報を出していただいたものであります。

広く皆さんに触れていただければと思いますが、いかがでしょうか。

ご意見、ご質問等ございますか。

○　笹井絹予委員

ＳＵＰって、私、この間初めてＢＡＵＲＡ　ミーティングで見たんですけど、これを持ってきた理由というのは何かあるんでしょうか。

○　矢澤政策推進課長

協議会の中で話をする中で、やはりキーワードとして若者に気づいてほしいと、ここの魅力を感じてほしいという中で、若者に体験してもらえる水辺でという、いろいろ議論する中で、県内にこのＳＵＰを大台町のほうでやっていただいている事業者さんもいたので、ちょっと試しにやれるかというのを今回させていただいたというところでございます。

○　笹井絹予委員

ほかに何か水辺でできる競技というか、そういうのはあるんでしょうか。私、ちょっとあんまりそういうのは分からないので。

○　矢澤政策推進課長

まだ具体の議論はないんですが、ＳＵＰができるということであればカヤックみたいなものもいけるのかなとは思いながら、一番今のところ手軽にできるのがＳＵＰって、ボード自体も女性でも１人で持てるようなものだったりしますので、その周辺の設備も簡易なものでいけるというところで、まずはＳＵＰというところでございます。

○　笹井絹予委員

ありがとうございます。

○　荻須智之委員

水を差すようで非常に申し上げにくいんですが、このＳＵＰというのが増え出してから事故が激増して、漂流が多い。それから、漁船との衝突で女性が死亡している例もあるんですが、推進力が弱いものですから、シーカヤックなんかに比べると危険回避ができないんですね。それと、風に対して非常に弱い、推進力が弱過ぎてということで、陸から海へ風が吹くときにほとんど流されてしまうんです。

これは都市型の、港内でできるところがここしかないという荒木部長からのお話もあっ

たように、ほかでは全部排除されています。ここの船だまりもプレジャーボートがもし動いたら即事故が起きるので、海上安全指導員の立場からしても、これは一考の要があるかなと。皆さんが思ってみえるほど港内ってそんなに安全じゃないんですよ。常にもう船が行き交っていますので、大型船からは、すみません、目の前が見えないんです。ですので、私はどちらかというと、これはそれこそ大台町とか高松海岸のあたりでしたらまだ許せるんですけど、それでもすっと風に流れて航路に入ってくるんですね。ということを認識していただいているかなということで、ちょっと確認させていただきたいんですが。

○　矢澤政策推進課長

ご意見ありがとうございます。

実際このイベントの前に、６月に関係者でテストした際は、潮吹き防波堤とか、もうちょっと先のほうも行った中で、やはり海に近づけば近づくほど危ないなというところはありましたので、今回なるべく運河寄りにさせていただきました。私も個人的にやった経験はあるんですけど、やっぱり風にあおられると非常に危ないなというのは、個人的にも思っておりますので。

また一方で、やる中で、今回は一発物のイベントですけど、これが常にできるということになりますと、ルールづくりというのは当然必要だよねというところは協議会でも議論はしております。やっぱりそういうところを気づけたのも、一回やってみてというところがありますので、今後、次年度以降、これが持続的にできるか、そういうルールづくり、関係者の協力体制も含めて、引き続き議論していきたいというところでございます。

○　荻須智之委員

きちっと把握していただいているので安心しましたけれども、ローパドルのシーカヤックなんかとでも全然推進力が違いまして、普通は船が来ると逃げるんですけど、逃げへんのですわ、この人らは。それだけきちっと把握していただいているので納得しました。ありがとうございます。

○　樋口龍馬委員長

他にございますでしょうか。

○　早川新平委員

３ページのちょっと確認で、ＳＵＰ体験申込者の属性とクルーズの申込者の構成で比較してもらってあるんやけど、10歳未満というのはどういう定義なのかな。というのは、これは確認だけなんやけど、10歳未満は、ＳＵＰは１人、女性も１人で２人の申込みがあったよね。一方のクルーズというのは、約４分の１、25％近くが10歳未満というのは、ここ、ちょっと教えてほしいの。例えば２歳、３歳が、親子連れのやつが入っているのか、それとも単体で10歳未満の子がこれだけ行きたいというのか、そこの振り分けだけちょっと確認だけしておきたいんやけど。

○　矢澤政策推進課長

全ての申込者を確認したわけではないんですが、基本は10歳未満というのはやっぱりご家族連れでございます。

○　早川新平委員

ありがとう。ということは、同伴者という位置づけでいいのかな、申込者というのは。10歳未満が約４分の１もおるということは、単体で10歳未満も来たのか、そこのすみ分け。これを見ると24.2％あるので、ちょっと誤解を招きそうで。子供さんが本当に申し込んだのか、同伴者という位置づけなのか。そこの確認だけちょっとしたいんやけど。

○　矢澤政策推進課長

全て私もまだ確認はしていないんですが、基本ご家族で、グループで参加していただいている形で、申込みも、抽せんもグループでということで参加いただいていますので、単体で10歳未満ということはなかったというふうに思っております。

○　早川新平委員

ありがとうございます。

最後にしておきます。そうすると、申込者というのがちょっと、僕は今の説明だと、申込者というと、一緒に来ていただいたという総人数なら分かるけど、誤解を招くんじゃないのかなと。もしそれだったら今後気をつけてもらったほうがいいなと。意見。

○　樋口龍馬委員長

協議会のほうにこういった意見もあるよねという角度で、ぜひ上申いただいて、その中で整理をかける部分については整理をかけていただいたほうが、確かに申込みを主体的に行ったのかグループで行ったかによって、属性が若干変更になる可能性がありますので、そこは検証の材料にしていただければと思います。

他にございますか。

○　加納康樹委員

６分の３ページというか４枚目というか、参加人数、そして参加者の方々の感想というところがあるんですけど、その中で思ったのが、皆さんが取りまとめたものじゃないのでどうしようもないと思うんですが、感想の中にパンまつりに関して特段のコメントがないんですね。漁協さんの即売会がすぐ終わって残念というのがあるんですけど、現実、ざっと眺めさせてもらった感想でいくと、参加者がもし2000人だったとすると、1000人ぐらいはパンまつりが目当てだったんじゃないかというぐらいの大行列だったようなイメージがあるんですが、これは、別にそのことに関してはよかったも、なくなったことに対する不平不満も、特段アンケートを取った中にはなかったということでしょうか。

○　矢澤政策推進課長

集計、全部ではないんですが、おっしゃるとおり、やっぱりアンケートにお答えいただく時間を、ある程度、比較的取っていただける方なので、やっぱりＳＵＰとか船のクルーズとか、セミナーに参加いただいた方が比較的アンケートにご協力いただいたというところがありますので、聞こえる中で、やっぱりパンが早く終わっちゃったよねというのはちらほら聞こえてはいましたので、パン、午前と午後とやりましたけど、ともに30分ぐらいで売り切れちゃったというところは聞いてはおりますので、その辺は今後のちょっと課題とさせていただきたいなと考えております。

○　樋口龍馬委員長

加納委員、大丈夫ですか。

○　加納康樹委員

結構です。

○　樋口龍馬委員長

ほかの方ございますか。

○　笹岡秀太郎委員

資料ありがとうございました。

四日市港まちづくり協議会さんが主催してやられておりますから、四日市市もそれに参画、中に入って参画していると、こういうイメージやけど、これ、第１回になっているけど、これからずっと継続して開催していくという予定でよろしいか。

○　矢澤政策推進課長

協議会、また来年度予算の話にはなってきますが、基本この協議会という形で、四日市市を含め、四日市港管理組合、四日市商工会議所の３者で、次年度も予算負担金という形で出して、このＢＡＵＲＡ　ミーティングというのを継続してやっていきたいというところです。

中身については、また来年度以降、今年度の課題を含めて、また新たな取組も検討しながら続けていきたいというふうに考えております。

○　笹岡秀太郎委員

こういう企画を通じて、港を通したまちづくりを考えていくというのは大変大事だと思うし、もう少し四日市も力を入れて、協力してもらってもいいかなという気がするので、あわせて、これ、国土交通省も入っているんだけど、国土交通省は、例えば具体的にどういうヘルプをしてもらったんやろう。

○　矢澤政策推進課長

会議というか、このミーティングの実際イベントになってきますが、これに至る過程で、やはり国土交通省として港湾のところでご意見をいただいたりとか、許認可の面でいろいろ相談に乗っていただくという中で、このミーティングをつくり上げていくというところでいろいろアドバイスをいただいておるという状況でございます。

○　笹岡秀太郎委員

恐らく全議員にもどこかの時点で報告があるんだろうと思うけれども、なるべく早めにこれを出していただくと、それぞれのまちづくりの参考になる意見がたくさん出てくると思うので、ぜひ、早期にまとめていただいて、議会にもお示しいただければなと。

この後の予定はあるんですか。我々に示していただいた、その後は。

○　矢澤政策推進課長

ほぼ、まだ最終集約には感想とかありますが、完成形に近いこういう形ですので、ある程度この委員会で出させていただいたやつを微修正させていただいて、どういった形かというのはあれですが、また、議員の皆様にも報告できるような形でいきたいと思っております。

○　樋口龍馬委員長

笹岡委員、よろしいですか。

○　笹岡秀太郎委員

それでよろしくお願いします。

○　荻須智之委員

この陸上の催しで、パンまつりがすごいことやったというのを伺って、ふと思ったんですが、どうしても水の中に入れというのは、蔵町の船だまりもカキがたくさんあって、ＳＵＰから落水するとけがをしないかちょっと心配なんですね。その点では、四日市港は高松海岸と吉崎海岸も入るのかな、ぎりぎり。砂浜のほうがＳＵＰは向いているし、夏場は、午前中は北西風ですけど昼前から南東風に変わりますので、海風になるので、陸へ流されるので安全なので、実際に入るのはそっちのほうがいいんじゃないかなと思いました。

この港は、陸上での人寄せに特化されたほうが安全じゃないかなと思いました。すごい人やったわけですから。それだけちょっとお考えいただければなと思いました。

以上です。

○　樋口龍馬委員長

他にございますか。

○　笹井絹予委員

今回のこのＢＡＵＲＡ　ミーティングは、飲食をするお店というのは何店舗ぐらい入っていたんでしょうか。

○　矢澤政策推進課長

キッチンカーが三つだったかな、すみません、記憶であれですが、キッチンカーが３台だったかなというふうに記憶しております。

○　笹井絹予委員

せっかく人気ベーカリーとかいろいろ書いてあるので、私も行ったとき昼過ぎぐらいで、何か食べるところというか、食べるものとか買うところがあんまりないなと思ったもんで、せっかくするなら食べられるようなお店とかをもう少し増やしたほうがいいのかなと思って。私の意見です。

○　樋口龍馬委員長

他にございますか。ございませんか。

○　笹岡秀太郎委員

離れてもいい、議論から。

○　樋口龍馬委員長

多少どうぞ。

○　笹岡秀太郎委員

私、この人知らなんだんやけど、国土交通省のミズベリングプロジェクトというのがあるのも知らなかったんやけど、このミズベリングプロジェクトというのは、四日市は何か活用しておるの。それで、このディレクターを四日市のこの方が務めているということは、

ここに来ていただいているから、この人を活用したんだろうと思うけど、四日市市として何かこの人を活用しているということがあるの。

○　矢澤政策推進課長

四日市市としては、この方は特段まだこれまでお付き合いはないという状況です。ミズベリング自体、全国いろんなところでやっておりますという中で、初めて四日市港としてもこの方を呼んで、今後、進めていく中でいろいろアドバイスをいただけたらなというところで考えております。

○　笹岡秀太郎委員

せっかくこういう人がおるんやったら、ぜひ活用していく視点でよろしくお願いします。

以上です。

○　樋口龍馬委員長

もう少し別に入ってもらってもいいですよ。大丈夫ですか。

他にございますでしょうか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

ないようでしたら、追加資料についてはこの程度にとどめさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

では、ちょうど１時間程度経過いたしましたので、後ろの時計で午後２時40分再開ということでよろしくお願いをいたします。

休憩いたします。

１４：２７休憩

１４：３９再開

○　樋口龍馬委員長

ちょっと早いですけど、皆さんおそろいですので、進めさせていただきたいと思います。

それでは、６番の部分の論点整理に入ってまいりたいと思います。図書館を含む中心市街地の再整備という点についてです。

ここの点については、あんまり今まで議論が、議員説明会での図書館の説明を待ちましょうみたいなことがあったり、もろもろしながら、大きく意見の交換を進めてきたというところが比較的薄い場所になります。ですので、特段皆さんに、前回みたいに披瀝をして進めていくというよりは、新しい気持ちで何なりと発言いただいたらなというふうに思うところであります。議員説明会の内容も踏まえて、委員間で討議を行っていただきたいと思います。

それでは、図書館を含む中心市街地の再整備の部分、ご意見、ご質問がございましたら、挙手にてご発言をお願いいたします。

○　荻須智之委員

図書館そのものについて、今、着々と進めていただいているんですが、これは50年先まで先のほうを見ると、電子図書はだんだん増えていって、紙の図書というのは減っていくなというと、図書館自体が今の図書館を頭に描いて進められているというところにちょっと不安があるんです。ですから、建てずに借家みたいに入っているというのも一つそれはありなのかなと思いつつ、電子図書館は２月から言い出しても全然進む気配はないんですけれども、もう既に愛知県名古屋市はそうやって進めてきているというところで、新しい図書館の未来像というのに対する認識がどうなのかなというのは、ちょっと理事者の方に伺いたいんです。

新しい図書館を建てるときに電子図書館をというんですが、タブレットを毎日子供、前の籠に入れて、中学生も通っているんですよ。ですが、電子図書館が使えないと。585万円ですぐ導入できるのに、駅前イルミネーションには500万円を使って、図書館はしないと。そうやって夕べも説明したら、何で早うせんのとすぐに言われるんですね、保護者ぐ

らいの年齢の方に。そうこうしておるうちに、もうこの学年が終わると卒業していってしまう。さっぱり分からない、そこら辺が。電子図書館にすれば、今の形のある図書館も本来は要らないかもしれないと思うんですが、そこら辺に、今と同じ図書館を50年間引っ張るのかどうかというあたりでご所見を伺います。

○　矢澤政策推進課長

ご意見ありがとうございます。

やはり図書館、長い年月の中で紙だけの今の図書館というところでは、我々もちょっとそこは、想定はなかなかできないというところもありますので、単なる今までの紙の図書のやり取りだけではなくて、前回の８月の議員説明会でもコンセプトをご説明させていただいたんですが、滞在型の図書館というところと、あとＩＣＴを活用して、当然、電子書籍というところも前提に置いたスマート図書館というところも想定しております。ゆとりある空間の中で、紙の図書だけじゃなくて、新しい情報であったり、人と出会える、交流できる機能、当然、あとはワークショップなどのそういうスペースも持った、交流施設も持った、そういったコンセプトで新図書館というのは検討しておるというところでございます。

○　荻須智之委員

それがどうして中心市街地の活性化に寄与するのかというのがいまいち分からんのですわ。滞在型にしてしまうと、店に行かないんですよね。大体、喫茶店が１階に入るんですけど、そのコーヒーを持って上がれるようにしているところが多いんですけど、もうそれだけで喫茶店へ行かないじゃないですか。おまけにビールを出したら飲み屋にも行かんのやないかなと思って危惧するんですが、そこら辺がすごく、田舎の大矢知から見ていると矛盾しているんですね。中心市街地活性化ということで、中心市街地の飲食店の敵じゃないかなと思えるんですが、そこら辺だけ、ちょっともう一回整理していただきたいんですが、どうでしょう。

○　樋口龍馬委員長

荻須委員に申し上げます。

行政とのやり取りではなくて、議員間討議でありますので、事実の確認だとか、認識の

確認をしていただくのは結構です。なので、今、そういう飲食だとか飲酒の部門を設けることによる効果についての確認というところまでは認めていきたいと思いますが、行政追求型でしていただきますと、この特別委員会がこの先の総務常任委員会の権能であったり、教育委員会の権能を侵すことになってしまいますので、そこについては留保いただいて進めていただきたいと思いますので、認識についてだけ、矢澤課長、お願いします。

○　矢澤政策推進課長

先ほども申しました交流機能というところで、図書館に新しく駅前のところに集まっていただくというところでございます。一方で、やはり商店街の方々も、新しい図書館で人が集まるというところには期待を持っていただいているところがあります。正直、今現実、どのように図書館に来ていただいた方と商店街とどう連携するかというのは、今、まさしく議論を始めておるようなところでございますので、今後、そういう商店街の方のご意見も伺いながら、どうリンク、中心市街地の活性化につながるかというのは、引き続き検討していきたいというところでございます。

○　荻須智之委員

じゃ、討論に移らせてもらいます。

ということであれば、今から商店街との話合いということで、当初のコンセプトの時点で、商店街のご意見とか、こういう影響が出るということは、あらかじめ共有されておるべき問題じゃなかったのかなと思うので、私は、この図書館は失敗やと思っているんですわ。田舎から図書館へ行こうと思うと、今の場所は渋滞がなくてすごく楽なんです。それで、何遍か言いましたけど、１人で40冊借りる人がいるんですね。家族４人の図書館カードを持ってきて、これ、もうバスや電車で帰れるわけないんですよ。

というので、理事者に図書館カードを持っている人を聞いたら６人しか持っておらへん。だから、図書館を使っていない人が図書館を創造しようとしているということで矛盾を感じる。タブレットを全員に配るということをしておりながら、電子図書館へのアクセス権の585万円すら出せないというところが、全くこの町というのは、教育とか子供の育成に関しての意識が低いと。その両方の面で見て、中心市街地活性化と図書館というのは、無理にリンクすることには反対です。

ですけれども、施策として進んでいる以上は認めざるを得ないと思うので、なるべく未

来型の図書館にしたいなと。ワークショップとか、そういうスペースは確かにあればいいし、桑名のメディアライヴか、あそこの図書館の館長に伺ったら、ミニコンサートができるようなスペースがあるとすごくいいというのも伺ったんで、そういう意味での機能としてはいいとは思うんですけれども、図書館という機能に特化してよくよく考えて掘り下げてみると失敗かなと思ってしまいます。

以上です。

○　樋口龍馬委員長

収集、収蔵という機能について特化すべきではないのではないか、中心市街地というロケーションに合わせたような図書館機能が求められるのではないかというご意見というふうに整理させていただいてよろしいですか。

○　荻須智之委員

はい。

○　樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

ほかの方もどんどんと活発にご意見を、また、確認すべき事項がありましたら、先ほどの荻須委員のように、ぜひ確認ができる範囲で理事者のほうにも投げかけをしていただいてと思います。

○　伊藤昌志委員

様々な場面で図書館は出てきますけれども、委員間というよりも意見という感じです。

三つあります。一つは予算。もう一つは市民ニーズ、市民ニーズというのは、先ほどもご意見の中にあったように、利用者と非利用者、そして地域住民の人たちの考え。もう一つは、今の社会、コロナ禍社会、デジタル化社会に対応したものということを考えて、できる前にやっぱり、市民の皆さんにそれをちゃんと知っていただいて、やはり造らなきゃいけないなと思います。

今のが意見ですけれども、その中で一つ提案としては、何か市民の皆さんとつくる会とか、何か意見をたくさんもらう場をつくって、その意見も踏まえて出来上がっていくべき

じゃないかなというふうに思います。

○　樋口龍馬委員長

中心市街地の活性化検討会議の中でやっているようなワーキンググループをつくるだとか、市民参加型のことを、イベント的なこともしながら、中心市街地の活性化につながるような図書館機能をといったところでよろしゅうございましょうか。

○　伊藤昌志委員

そうですね。図書館、結構、ちょっと記憶が定かじゃないんですけど、いい図書館の中に、小牧ですかね、そういうのをやった上で造ったので、やはり評価が高い、自然に高くなるんですよね、ソフト面で。そういうようなところが入ると、できたときに喜ばれる率が高いかなと思います。

○　樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

他にございますか。皆さん、どうぞ。

○　加納康樹委員

結論からいきますと、この論点６、省いてもいいのかなという気がしています。理由としては、図書館という個別具体が出てきているので、荻須委員のようなネガティブなご意見も出てくるということがありますし、委員長のほうから冒頭もありましたけど、議論をちょっと先延ばしにしていたからということもなくはないけど、今まであまり図書館を中心とした議論も、この委員会として議論が熟成されたわけでもないということ。図書館ってすごく大きな問題なんですけど、この論点１から５を見て、６だけ見ると、図書館という結構、個別具体なところが出てしまっているので違和感もあるということ。さらに、論点１から５までは、うにゃうにゃのまちづくりという形で包含的なもので来ているけど、６だけもともとそういうふうな書き出しにもなっていないということを考えると、この委員会の求めるところとして、６の議論はもうしなくて省いちゃってもいいのかなという気がしています。

以上です。

○　樋口龍馬委員長

これは、図書館を含むというのは、何なら両括弧で閉じてもいいぐらいの感覚で、中心市街地の再整備についてというのが本旨であります。ただ、そのときに、図書館の話も踏み込んでいいのかなという、委員の皆さんの冒頭での懸念がありましたので、あえて図書館を含むということを書いたものがこのまま残ってきてしまっているというのが経緯、経過というふうに委員長は理解をしておりまして、さはさりながらで、中心市街地整備の事業をこの際、外に置いてしまっていいのかというと、少しパーツ漏れになっちゃうのかな。なので、図書館を含むというところについては、この際、論点の整理としては、今日を機会に外させていただいて、含んでいるんだということは皆さんの念頭には置いていただきつつ、中心市街地の再整備、どういうふうなまちづくりというふうにするのか、それか中心市街地の再整備も含めて、ほかのまちづくりの中に入っているんじゃないかというご意見が多いようであれば、項目ごと、ごそっと落としてしまって、中心市街地整備についてはほかの部分に含めていくんだよと。今日行ったような議論は、ほかのところにひもづけて入れていくということも作業としては可能かなというふうに思うところでありますが、皆様、いかがでしょうか。どのように進行いたしましょうか。

○　伊藤昌志委員

ちょうど私、今言った意見というのは、まさに同じで、中心市街地についての考えなんですね。既に専門家が集まってやっていますけれども、いざ１か月の社会実験をやってもなかなか、声を私、実際に拾いましたけど、それが反映されているような場ってやっぱりないんですよね。だから、含めてということで、今、委員長がおっしゃったとおりに賛同します。

○　井上　進委員

図書館、市の考え方としては、図書館で何とか活性化という話は出ておるんですけれども、ただ、やはり私の考え方からすると、昔の市街地、そういった部分のにぎわいというのが、どうしてももう考えられやんような状況に今陥っておるような状況じゃないですか。それを押しのけておいて、四日市の未来というのは、なかなか、私たちは考えられやんような感じがするんですよ。やはり、私、田舎のほうやもんで、ここへ来るのは大変で、公

共交通で来るし、直接来ることができやんような地域の人間からしても、四日市のイメージというのは、やっぱり中心市街地というのは大事な部分かなというふうには思っていますので、そこがやはり盛り上がらんと、結局、我々田舎のほうも盛り上がってこんというのが今の現状かなと、私は思っておるんですけれども。

以前、私が高校のときなんか、バスでこっちへ30分、40分かけてやってきて、楽しんで帰っていく、そういった部分があったんやけれども、今、それをすることすらなくなってしまっておる。それがやっぱり四日市のちょっと弱ってきておる部分かなと、私は思うんですよ。だから、大学云々という話も、結局そういった部分やと思いますし、全てが、やはり中心市街地、四日市の基本となる部分の活性化が欠けておるというのが一番かなというふうに思うので、やはり図書館云々は別にして、市街地の活性化というのは外せやんのかなと私は思います。

○　樋口龍馬委員長

ほかの皆様、いかがですか。

○　三木　隆委員

冒頭、加納委員がおっしゃったように、ちょっと、これを個別にというのは、別物かなというふうに感じます。

○　樋口龍馬委員長

ほかの方、いかがですか。

○　笹岡秀太郎委員

加納さんのおっしゃることは一理あるなと思って、これは（６）で新しく項目をつくるよりも、（５）の中に、若者をはじめ多世代が集うにぎわいあるまちづくりが、中心市街地の再整備が必要なんだという視点で、③あたりに載せておくみたいなところかなというイメージで今のところ、この文章を見ています。

○　山口智也副委員長

皆さん、おっしゃることはごもっともで、井上さんがおっしゃるように、中心市街地の

エッセンスというのは外せないというのもあると思います。

笹岡さんがおっしゃったように、４番ですかね、若者の集うというところにも含まれてくると思いますし、また、１番の港のところでも、みなとまちづくりプランでも触れているように、港と中心市街地の連携というところも、そこにも加えていくこともできると思いますので、そういったところに加えるという形で、僕はあえて外してほかのところに含めていくというところでもいけるんじゃないかなというふうに思います。

○　樋口龍馬委員長

今、ちょっと特別委員会を構成する委員のメンバーの中からは、特出し的な扱いをするのではなくて、まちづくりの一つのツールとしての中心市街地の再編という考え方で捉えて、大項目として抜くのではなく、それを契機とした様々なまちづくりという観点で進行したほうがよいのではないかというご意見をいただいています。

ここで、執行部のほうに確認をさせていただきたいと思います。そういった認識で我々が議論を進めていく、中心市街地から始まるまちづくりではなくて、様々な課題解決をする手法としての中心市街地の再編という受け止めをしてもよいのかどうか、ここを確認したいと思いますが、荒木部長、答えられますか、伴部長、どちらになりますかね。今日しゃべっていないので、伴部長、どうぞ。

○　伴都市整備部長

都市整備部の伴でございます。

なかなかちょっと、個人の見解的なところになってお答えしにくいなと思っていたところでして、山口副委員長が言われましたように、別の、例えば（５）のところに当てはまったりとか、そういうところにも入ってくるものとなってこようかとは思いますので、個別にというところでなくてもいいのかなとは、今、いろいろ議論をお聞きしていて感じたところでございます。

○　樋口龍馬委員長

荒木部長、いかがですか。

○　荒木政策推進部長

様々な課題を解決するために、中心市街地の再整備を行うというような委員長からのご意見でございましたが、最終目的はそうなろうかと思いますが、ここの文章でいきますと、中心市街地の再整備をすること自体が目的化しておるというか、そういった表現になってございますので、（４）や（５）のようにするためのまちづくりとかいう大きなくくりで、そこの中の一つとして中心市街地の再整備もあるというような、私どもは認識でございます。

以上でございます。

○　樋口龍馬委員長

執行部の思いも特別委員会のメンバーの皆さんの思いも、方向性としては近似しているのかなというふうに感じました。ですので、この際、特出しで中心市街地の再編について触れるのではなくて、大きな枠組みの中のパートとして扱いをさせていただくというようなことで、荒木部長、よろしいね。そのように進めさせていただきたいと思います。

その上で、中心市街地再編について、どの場所に当てはまると思うということまで触れていただけるとありがたいんですが、なかなか触れにくいので、総括的にというようなご意見でも結構です。平たく集めてまいりたいと思います。

○　早川新平委員

今、委員長、きれいな仕切りをしてもらっていて、図書館を外すというのは、僕はもう当然賛同なんだけれども、中心市街地の再整備って、この文章が出てくると、どういうふうに中心市街地を再整備するのか。例えば、今現状が飲食店ばっかりやから、昔のようないろんなお店、これを行政だけでできるわけないので、目指すまちづくりというのをどこへ向かわせるか、単純に言うたら一般質問でいろんな話も出てきて、一番街を歩行者だけやなしに車に取っ払ったらいいやないかとか、個人個人が描いておるまちづくりってあるじゃないですか。だけど、ここでそういう議論はできなくて、民間の力が当然結集しなきゃいかんけれども、飲み屋で夜のまちになったらいいのか。目指すところを、一つ柱を決めておかんと、あらぬ方向へ行って、パッチワークみたいになっちゃうんやな。

だから、この中心市街地の再整備って、何で再整備、何を目指すかという、そこの方向性だけ一つやっぱり決めておいてもらわんと、360度、いろんな議論が出てくると思うんやな。だから、こういう買物ができるまち、あるいは歩くにはすばらしいまちやなとか、

そこの一つのコンセプトをつくっておかんと、今にぎわっているでええやないかという人もみえれば、個人によって違う。

先ほどの井上さんの意見にもう本当にそれが集約されていて、我々でも中心市街地に出てきて買物したり、それで帰っていくというか、だけど、今、四日市に来たって、買うものがないし、そういったところの、何のまちづくりをするかというところを、委員長、一応さばいておいてほしいなとは思うな。再整備っていわれると、言わなあかんのかという形になってくるので、一つコンセプトだけは決めておいたほうがいいと思う。

○　樋口龍馬委員長

この特別委員会の議論の中で出ていたのは、様々な世代の居場所の機能を持っている中心市街地が望ましいよねという話がたしかありました。もう一つが、日中、物販ができる、物販というか物が買えるお店が少なくなっているので、シャッターが多く見えてしまってシャッター街に映る、要は夜のまち化しているというところに対する危惧、これも示されました。

大きく分けて、この特別委員会の中で発言された内容というのは、小中高校生の居場所であったり、高齢者の方の居場所であったりといった機能。先ほども申し上げました物販機能が欠落しているのではないかと。この２点については必要なんじゃないかというお話が出ておったというふうに理解しています。

あと、行政が今回の道路整備等をしていくに当たって、中央通りの整備なんかをしていくに当たって、いつも言うところの回遊性、この回遊性の担保をどう見ていくんだというところは、再編の中の考え方としては位置づけてもいいのかなというふうに私はずっと思っております。ここが歩けるようになって、新しい商店が中央通りにばっと出てきて、じゃあ北側の商店が全滅してもいいのか、それでにぎわいなんですかというと、やはりずっと言っていただいている回遊性というものの重要性はあるよねと。そこに、次世代モビリティーというのはどういうふうに関連してくるんだろうなということを自分は想像しておったわけです。

こういう話をしていくときに、飲み屋街になってはいけないよねとかというようなご意見をざっくばらんに出していただいて、そこに話が集約していくのであればまとめとして出ますし、集約なされなかったものについては、議論の過程の意見として報告書の中には入れ込みをさせていただきたいと思います。

ですので、井上委員がいつも言われるのは、やっぱり物販だとか、日中のにぎわいが必要だよねということを一貫して言ってみえました。そういったご意見を皆様からもいただいて、いわゆる文教的なまちにしていくのか、ショッピングモールとしての位置づけになっていくのかとか、そういったものを併せ持ったものなのか、飲食でにぎわいを見せるまちというのがパートとして必要なのかとかというのを、例えばどこどこのまちのようにというふうに示していただいてもいいと思いますし、有名なところで丸亀のようにというふうに言ってもらってもいいのかもしれません。吉祥寺のようにと言ってもらってもいいのかもしれません。岡山のように、熊本のようにというふうに言ってもらってもいいのかもしれません。

皆さんの忌憚のないご意見をここで出していただいて、集約できるものについては努力をします。ただ、無理にまとめに行ってしまうと、これは何のための特別委員会だったんだと、おまえの好きにやりたかったのかとなってしまいますので、そこは皆様から広く、まずはご意見をいただきたいと思います。こんなまちになったらいいなというような希望的な観測も含めて、かつ、こうしていかなければならないのではないかという提言的な視点も含めて、皆様から広くご意見をいただきたいと思います。どうぞ。

では、早川委員、いかがでしょう。

○　早川新平委員

今、委員長がおっしゃって、僕、先ほども発言させてもらったけれども、自分たちが、市民が描いておるまちづくりってみんな、10人おったら10人とも違うと思う。僕は、井上さんの先ほどの発言というのは、まさしく四日市の中心市街地のにぎわいを取り戻す、ここが中心なんだよ、買物もできるよと。ただ、昨今の物販も、さっき委員長がおっしゃったけど、アマゾンとかそういうもので買って、店で買わないという流通形態も変わってきている。それから、理事者側がまちづくりと言われても一番苦手なところなんさ。こういう絵は描くんですけれども、運営していただくのは市民の方ですよと。そこが一番苦手で、歴史を振り返ると、松坂屋が来ても、もう撤退して20年ぐらいたったのと違うかな。そういった部分のところで、どういうコンセプトでやっていくかというところは一つ核があって、今委員長が言われたのは、回遊できるようなという、みんなが潤う、１か所だけではなしに。その規模の中やと、四日市の30万人口の中で、果たしてそれが適正なのかというところもあって、繁栄するのが今の状態の飲み屋街の夜のまちしかない。昼なんて一番街

へ行っても閑散として、午前12時から午後１時の間だけぐらいのところでね。

だから、じゃ、それをどういうふうに解決していくかというと、起爆剤で何か絵を描かんことには、昔、もう20年くらい前に吉本が来たら、諏訪公園やったら、人流は来るよねと。でも、それが果たしてにぎわいなのかというところがあるので、人流を目指すのか、にぎわいを、まちの活性化を目指すのかというところは、正副で少し決めていただきたいよなというのが私の意見です。

○　樋口龍馬委員長

ほかの皆様からもどうぞ。

○　三木　隆委員

先ほど人口の話が出たんですけど、やっぱり四日市は石油化学コンビナートに関わっておる人が多いと思うんですね。そうすると、昼間のにぎわいというのはなかなか難しいかなと。そこを難しいで逃げたらあかんのやけど、そこの攻め口は、切り口は、非常に大変難しいかなと。従業員の方々が、もちろん交代制もあって、いろいろ複雑な勤務もあるのを僕らも経験してきたんですが、そういう人たちをどのように誘導するかというか、そこら辺は、人口の比率がどのぐらいのものかは分からないですけど、商工農水部のほうで比率が分かれば教えてほしいんですが、そこらの視点も大事かなと思います。

○　樋口龍馬委員長

それは、昼間人口の年齢分布というのは、多分持っていないですよね。

○　矢澤政策推進課長

今、いただきました昼間人口比率は、ちょっと調べないとというところではございます。

○　樋口龍馬委員長

もし、そういう根拠になるようなデータがあるならお示しいただきたいんですが、ないんじゃないかなという気もちょっとするんですけれども、どこに勤務しているかということとかが分からないので、そこが難しいかな。

私なんか、ちっちゃい頃、もうしょっちゅう中学生のときは、ここで自転車に乗って遊

んでいましたけど、僕らがちっちゃいときというか学生時代は、とにかく中高生はあふれ返っていました。中高生が遊んでいて、プラモデル屋、おもちゃ屋、お好み焼き屋、そんなところの、ちょっと窓を見て遊べるようなところに子供たちがいてて、おじいちゃん、おばあちゃんが買物にいっぱい来ていて、傘を買いに来たりだとか、たばこを買いに来たりだとかというのを町なかでしていて、そんな酔っ払いがふらふら歩いておるというまちではなかったですね。食品を買い回りに来る主婦の方はもちろん見えたし、自転車であふれ返っているまちでした、私の記憶している限り。そこらじゅうに自転車が止まっていて、路上をまともに歩けやんぐらいの商店街であったという記憶をしています。それが、僕の十二、三歳から十七、八歳までの四日市なんですが、自転車の乗り入れがあるときを境に禁止をされて、一気に中高生が四日市に寄らなくなったというのがありました。僕らなんかは歩いても行けたもんで、歩いて出ていったんですけど、やはり中高生は減ったなという印象をあの当時、受けた記憶がございます。

でも、そのときにはちょうど松坂屋も開店した時期で、私の頃は、松坂屋の中にディスコはあったし、映画館もここら辺じゅうに全部集約されていたし、にぎわいのつくり方というか仕組みが違いましたよね、あのときは。アミューズメントが全てこの中にあったので、ゲームセンターもあった、カラオケもあった、全部がこの四日市にあって、四日市にしかなかったんで、みんな集まってきていましたし。

通信販売もなかったですし、皆その場に行って物を見て購入していましたし、それから、結婚するときの結納品の家具は全部、岡本総本店に買いに行けば間違いないみたいな、入学祝いの学習机はあそこに見に行って、あそこで選ぶんやとか、ランドセルだって、入り口のナガサワカバン店だったり、そこのタケコシさんだったりで買うという時代だったので、必ず折に触れて物販というものが四日市のまちに集中していた時代だったので、そのときをまんま取り戻すというのはちょっと難しいのかなというふうには、自分は思ってはおるんです。ただ、今の回遊している属性と、当時の属性は明らかに違うなとは思っています。

その中で、じゃ、方向性を示しなさいと言われますと、結局個人の思いになってしまうので、そこはできればやはり皆さんのご意見を聞きながら、方向性を集約していくという汗のかき方をしたいなと思うんですが。

いかがでしょう、早川委員。

○　早川新平委員

今、委員長がおっしゃるとおりで、四日市って30万人のまちで、今、ボーリング場ってないんよ。こんなの異様なことで、だから、まちの形態が変わってきて、委員長がおっしゃったとおりで、一つの筋だけ、こういう物販では、今の時代はもう確かに無理でしょうねと。そうすると、行政側がどういう絵を描いて活性化をしていくかというのは余計難しくて、10人おったら10人ともまちづくりが変わってくる。だから、そこのところで、議員間討議をさせてもらうのは非常にありがたいんやけど、１本だけ筋を、例えば流出するのを抑えたいのか、それとも自然減とか、何か一つ方向性だけは決めていただきたいなというのがあります。私らは、逆に言うたら、委員長と逆で四日市の地方なので、だからそう言いたいところがあるので、思いはやっぱり違うと思う。寂れるのは物すごく寂しいから。視察に来ても、ＪＲ四日市駅を使われる方が多いんで、四日市ってこんな田舎やったんですねってよく言われるんで、これ、議員さん、みんな分かると思うけど、僕は何か情けないわ。

○　樋口龍馬委員長

町名に蔵町とつく旧町の皆さんは、皆さん、お金持ちだから蔵が建っておったわけですからね、町場かどうかというより、多分護岸の皆さんのほうがお金は持っておったと思いますけれども。

ただ、昼間のにぎわいをつくっていくということに対して、異議のある方っておみえになりますか。確認をさせていただきたいんですが。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

昼間のにぎわいってことに対しては、皆さん合意ができるということが確認されました。

もう一つ、じゃ、各世代に応じた居場所のような場所に中心市街地はあるべきかどうかという点はいかがでしょう。何歳のと特定するわけじゃなくて、ご高齢の方にはご高齢の方の、働く世代には働く世代の、それはもしかしたら飲み屋さんなんかだったりするのかもしれません。中学生や高校生、小学生が寄ってこれるようなまちという点ではいかがですか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

そこも特段の異議はないということでありますと、次は、市内から見える方なのか、市外から来る方なのかというターゲットにこだわりはございませんか。

（発言する者あり）

○　樋口龍馬委員長

加納委員からどうぞ。

○　加納康樹委員

委員長がまとめにかかっているんで、ちょっとその前に議論を戻すわけでもなくて、単なる思いだけ、まとめにかかる前に言わせてもらうと、委員長のところだから、多少よいしょもしながらの感じもなくはないんですけど、中心市街地の再整備、中心市街地のポテンシャルでいくと、意外と注目されていないけどやりようによって人を引っ張る魅力がもっとあってしかるべきなのが諏訪神社であり、鵜森神社であると個人的に思っています。だけど、あんまりそんなに相手にされていないのは何でかというと、近鉄四日市駅からの、大げさに言うと参道がないわけで、そういうふうな形の整備というので、中心市街地のポテンシャルを上げられるんじゃないかな。駅から、鵜森神社をどのような評価をしていいのかよく分からないんですが、でも、両方の神社に向けての参道みたいなものがあると何かイメージが変わるのかなという思いがなくはないです。

何でこんなことを言うのかというと、非常に分かりやすいところでいくと、つい先日、全日本大学駅伝がありましたけど、あれ、熱田神宮から伊勢神宮を走っているんですが、ご承知のとおり、伊勢神宮って大観光スポットですごい人が集まるんですが、名古屋のすぐ端にある熱田神宮の参道って惨たんたるものなんです。名古屋のすぐそばにあるのに何のポテンシャルもなくなっちゃっている。よく名古屋の人に言われるのが、伊勢神宮さん、三重県はうまいことやっているけど、熱田神宮はもう全然あかんのやわ、何なんだろうというと、もちろん伊勢神宮の場合、とある企業さんが相当金をかけたからというのもなく

はないのかもしれないんですが。それぞれ神宮でレベルが違いますけど、神社というところにスポットを向けて、行政側は、その二つのところの公園というところでの整備という発言はよくあるんですが、行政がいきなり手を突っ込む話ではないとは思っていますが、駅近で神社が二つある、そのポテンシャルも生かし切れていないというところについても、若干、目を当てると面白いまちづくりになるのかなという個人的な思いは持っていますということで、この辺に住んでいらっしゃる委員長をちょっとだけ持ち上げてみました。

○　樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

鵜森神社なんかで、お越しになる方にどこからお越しですかとかと聞くと、結構遠くからわざわざ来てくれていて、何を見にみえたんかなと思って聞くんですけど、浜田城の城塁がちょこっとだけ残っているんです。中心地に城塁が残っていること自体が非常に珍しいんだということで、お城好きな方が見に来られて、ついでに神社を参っていくみたいなケースがあるようです。

お諏訪さんのほうは、皆さんもご存じの山車が非常に特徴的なのは、もう皆様には耳にたこでございましょうけれども、全ての山車の形が違うというところが非常に珍しいと。岸和田へ行ってだんじりを見て、どこの山車かって分かるのはよっぽど好きな人じゃないと分からないし、高山祭に行って見ても、どの山車がどの町だということはなかなか分からないんですが、四日市の山車というのはあまりにも形状が違うので、違うということがまず一目で分かるというのが非常に珍しいということを言われております。これをして、昔の旧四日市の人たちというのは進取の精神があるというふうに、我々はちっちゃい頃から、つまり新しいもの好きやと、四日市の人間は新しいものが好きやもんで、この前、小林議員でしたかね、全体会の場で発言して、新しいもの好きやでさと言っていましたけれども、まさにそういう精神が息づいているんだと。だから、山車の形が全然違うんだというのは、幼い頃から言われてきたところでありまして、そういった違いを受け入れる広い部分というのが、お諏訪さんにもあるのかなと。

ちなみに、もう一つ言いますと、非常に珍しいことに、浜田地区の人間だけかもしれないですね、氏神さんが二つあるというふうに言いまして、諏訪と鵜森さん、両方が氏神さんですよという扱いをして、初うまだとか七五三は両方参るみたいな方が結構みえまして、土着の信仰は鵜森さんにあるんですけれども、お諏訪さんのほうにも敬意を持って接して

いるという住民性があって、若干、不思議なまちであるのは間違いないんですが。

もう一個言うと、非常に政教分離を四日市行政はほかの行政より強く言います。もうそれで苦労しているのは富田の鯨船もそうですし、けんか祭りもそうですし、早川委員のところの石取祭りもそうですよ。ばんこ祭りはイベント、催事みたいに扱ってもらっているところがあるのである程度ですけど、なかなか神事に対しての関わり方というのを極端に嫌うのが四日市行政でありますので、荻須さんなんかはよく、以前、獅子舞をずっと追いかけられたりとか、山車なんかの写真を撮ってみえたんでよくよくご承知やと思いますけれども、非常に四日市行政は祭りというものから、神事から距離を置くということをずっとし続けています。その中で、観光コンテンツとして使ってもらうのであれば、宗教とのお付き合いというよりも、まちの一つのシンボルとして敬意を持って扱ったらどうなんかなというのは、私も日々感じるところではありますが、公園整備をするという話になりますよね、いつも。そこが非常に難しいところなんでありますけれども、そういったせっかくのシンボリックなものをどう使っていくのかというところについては、まちづくりの中で一つ押さえておくとよいのかもしれませんね。

○　伊藤昌志委員

委員長の話を受けて、神社のことに関しては、やはり理事者の皆さんとか市役所の皆さんの個々の立場でいくと、非常に、どちらにしろご本人の思いがあっても難しい立場なんですよね。そうすると、まさに、これは政治の世界で変えなきゃいけないので、理事者側は市長、あとはもう議員の皆さんが頑張るというのが一つで、出していただいた鯨船は鳥出神社の鯨船ですから、そこはしっかりした事実をきちっと残していくと。これは、私も３年間、個々に話していますけど、役所の皆さんは皆さんで、なかなかそこは難しいので、ぜひあらゆる場面で、議員の皆さんで出していっていただきたいですね。意見です。

○　樋口龍馬委員長

伝統文化と絡んだようなまちづくりも必要だよということで整理させていただければ、神社と抜き出してしまうと難しいところがあるんですが、伝統文化に対する支援というのはしていただいていますので、その部分でいろいろと。京都の祇園祭なんかは、京都の市長がしっかり出てきますからね。なかなか四日市のお祭りには四日市の市長は出てきてくれないんですけれども、顔は出してくれますけど、がっつりと役割を持ってくれているの

は、京都なんかは大きな事例ですが。

少し話が散らかってしまいました、すみません。

○　山口智也副委員長

先ほど委員長のほうで、にぎわいは市内の方なのか、市外の方なのかというところなんですけれども、両方だというふうに思いまして、これはみなとまちづくりプランの四日市港のほうの将来像の中に、交流と賑わいの創出というのがありまして、こう書かれております。「平日は市民の憩いの場として、地域住民の健康生活を支えながら、住民同士の交流の場を創出する。休日は周辺地域から人が集まる賑わいの場として、広大な水面を活かした非日常を味わう空間をつくる。多様な価値観が重なり合い、活発な交流が生まれる、多世代に愛される“みなとまち”となる。」というふうに書かれておりまして、これはもう、まさに中心市街地にも当てはまるコンセプトではないかなというふうに思います。

というのと、あと、先ほど委員長が回遊性というところもエッセンスで出していただきましたけれども、中心市街地と四日市港の行き来だけではなくて、そこからさらに回遊性というところで様々な商店街にも効果が及んでいくような、そういったエッセンスが必要ではないかなというふうに感じました。

○　樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

そのようなご意見もいただきながら……。

○　井上　進委員

先ほど、いろんなご意見を伺っておるんですけれども、正直、さっきも言ったけど、私の中学、高校の頃って、まず中心地にジャスコがあったじゃない。その前の岡田屋の頃からジャスコに変わったようなそんな時代で、やはり核になるものがあれば、それを通して人の動きは当然出てくる。それが、今、郊外にショッピングモールやそういったものがぽつぽつできて、みんながそちらのほうへ行けば何でもあるという形になってきておるというのが今現状やと思うんですよ。その部分において、やはり人が来たいなと思うような部分、これはもうやっぱり商店街の方たちとしっかりと議論しながら進めていかなあかん部分やと思うんですが、人がここへ行けば買えるよねと思えるような、そういった商品がそ

ろうようなまちになっていないと、とてもやないけれども人はなかなか戻ってきてくれやんかなというふうに。

私、正直、四日市の外れやもんで、ほとんど買物って鈴鹿のほうに行っちゃうんですけれども、鈴鹿のほうへ行くと、昼間でもやっぱりショッピングモールなんかは物すごい人であふれておるんですよ。そういう人が商店街に何でそれが流れていかんのかなと、私、いつも思うんですけれども、そういった方たちが流れるような、あそこ、行ってみたいよねと思うような、そういったやはり構成というか、そういった部分を考えていかなあかんというふうに私は思っておるんですけれども、そういった部分があれば、また人の流れが変わるのはそういった部分かなというふうに思っております。

○　樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

○　笹井絹予委員

ちょっと何か、先ほどいろんな話を聞いていて、いろんな記憶がよみがえってきたもんで、何でもいいですか、言っても。

○　樋口龍馬委員長

どうぞ。

○　笹井絹予委員

さっき諏訪神社や鵜森神社という話が出ていて、私もそういえば学生のときに、部活で、覚えていらっしゃる方もいるかいないか分からんけど、鵜の森公園にテニスコートがあって、私はテニス部だったのでよく試合に行って、部活が終わった後、また、休みの日とか空いたときに鵜の森公園を使ってテニスの練習をして、その部活のメンバーとお昼をその辺に、鵜の森公園の中で食べたりとかして、結構そういう学生なり若い子たちが足を運んだのに、何かそういえばそういうのもあってもいいんじゃないかなと思って、今、ちょっと意見のほうを言いました。

○　樋口龍馬委員長

昔はスケート場もありましたからね。

（発言する者あり）

○　樋口龍馬委員長

そうですね、プールがあって、それがスケート場になるという。

○　笹岡秀太郎委員

昔の記憶がぼちぼちとよみがえるんやけど。

極端な意見で申し訳ないんやけど、四日市の商店街が夜、元気のいいまちなんていうのは昔からのことで、そのバックには、その時代時代に活性化した産業があった。コンビナートの前には萬古業界が元気よくって、飲み屋街を萬古業界の皆さんが歩いていた。廃れてくると、今度は石油化学コンビナートの皆さんがやってきた。最近になってみると、マンションがどんどん増えて、いわゆる、ちょっとこれも後でまた教えてほしいんやけど、諏訪の商店街が衰退していくときに、夜になるともう郊外のほうの住まいへ移っていって、全然そこに人がいない時代だったのが、今、マンションが建って、昼間人口が増えているんじゃないのと、この辺りの周りを見てもマンションがいっぱいじゃないですか。という時代の流れを見ると、今の夜のまちというのは、夜のまちに特化してやってもいいんじゃないかなと。よそからも、津からも名古屋からも、四日市に飲みに行きたいなという、そんなまちにしていくのも一つの手法なのかという思いがありますね。そこで商売なさる方が利益を生むのであれば、当然そこに投資もしていくだろうし、もうからないんだったら来ない。これは民間の道理ですよね。

そういう意味でいうと、今、四日市が夜のまちになってしまったというのは、一つの方向がこういう時代なのかなという気がするので、それはそれで反対に特化して、行政ももっと力を入れて夜のまち四日市とやってもいいんじゃないのという思いがありますね。

これからもやっぱり四日市の、例えば中心市街地が活性化なり発展していく流れの中には、やはりその後ろには、四日市を牽引していく産業がしっかりと張りついてきておるんだというあたりからまちづくりをしていかないと。というより、まちづくりって民間がしていくんかなと。そういう流れをしっかりと敏感にキャッチして、それに見合う行政投資

というか、まちづくりをヘルプしていく、そういう姿勢が大事なのかなって気がするんだけど、いかがですかね。乱暴ですか、夜のまちにするのは。

○　樋口龍馬委員長

商店街の方の中にも、一定の線引きをすることによって、夜に特化していくというのはいいんじゃないかというお声を出される方ももちろんおみえになります。そこは治安とのバランスなんですよね。治安とのバランスで、子供の学習塾なんかが結構あったりする中で、夜、酔っ払いがいっぱい歩いておるのはどうやみたいな話があったりするという近所の状況があるというだけで、うまいこと区分けができて、駅裏と駅前との違いがぎゅっと出せれば、以前はナイトマップに四日市という欄がありましたからね、今どうかは知らんですけれども。そういったご意見もあろうかと思います。

ほかの方のご意見もあれば集めたいと思います。

○　山口智也副委員長

夜のまちというのは、もう笹岡さんがいつも行かれておる、非常にそれはそれで否定するものでは全くありませんし、大事な部分だと思います。

一方で、昼間の将来のまちの姿というのは、今、取り組んでおりますけれども、歩きたくなるまち、そういうのを目指して、この中心市街地がある意味、全部が公園みたいになるようなイメージで、先日、はじまりのいちでも、子連れのお母さんたちが中心市街地の緑の部分で、本当に楽しそうに過ごしてみえる姿を拝見して、こういった方がもっと多くなって、昼間がこういった姿になっていけばすばらしいだろうなというふうに感じまして、そういったところもやっぱり昼間の姿として、これからしっかり発展させていくというのが一つ大事な都市像かなというふうには感じます。だから、昼間と夜の層が変わるかも分かりませんけれども、両方をしっかり追い求めていくというか、大事な部分かなというふうに感じました。

○　笹岡秀太郎委員

理事者に資料請求してよろしいか。

○　樋口龍馬委員長

もちろんです。

○　笹岡秀太郎委員

マンションも増えて、人口も増えていると思うんやけど――これ、感覚だけなんやけど――具体的な数字ってつかんでいるのやろうか。もしもあれば資料が欲しいんやけどね。

○　樋口龍馬委員長

地区ごとの人口の統計資料は毎月出してもらっていると思いますが。

○　鈴木都市計画課長

都市計画課の鈴木です。

毎月ホームページのほうにも上げておりますけれども、統計情報の人口ということで、住民基本台帳をたしかベースにしていたと思うんですが、それで地区ごとですので、中部地区の場合、町別でもたしか出ていたと思いますので、それである程度遡って経緯を見ていくということは可能かと思います。

○　笹岡秀太郎委員

そういうのを参考にして、まちづくりも進められているというイメージでいいんやろうか。

○　鈴木都市計画課長

よく私どもの課のほうで、地域のほうに入るときの基本的なものの一つとして、人口というのは必ず押さえております。今、中部地区のお話ですけれども、ほかの地区に入る場合も、どういった人口の動態があるかというのは把握をしながら、地域の方とお話をするということを基本的には行っておるようなところです。

○　笹岡秀太郎委員

そうすると、もう細かいところまでは言わんので、具体的に今、マンションが本当に見ていて増えているなと思うんやけど、その伸び率というのはかなりあるんやろうか。

○　鈴木都市計画課長

ちょっとうろ覚えなんですけれども、少し前に中部地区の人口を何かでちょっと眺めたことがありまして、少し上向きといいますか、当然、委員が言われたように、マンションが数棟建ってきておりますので、人口が上向きといいますか、右肩上がりの数値のものを見たというふうに記憶しております。

○　笹岡秀太郎委員

東京から四日市に企業がこれから来ようとして、また来年度も人をいっぱい入れるよという情報があるけど、そうすると、やはり今までのイメージと違う中心市街地に人が集まってくるまちづくりというのを考えていかないかんのかなという思いもあるんやけど、その辺りはどんなイメージで持っておるんやろう。聞いてよろしいか。

○　樋口龍馬委員長

もちろんです。

イメージをお持ちですかという問いです。

○　笹岡秀太郎委員

ただ単に企業が四日市に人を集めるだけじゃなくて、やっぱり四日市も何らかの仕掛けなりヘルプなりはあると思うんやけど、その辺ももしもあれば誘導策とか、あるいはそういう情報をつかんでおるのであれば、その人たちが定着していただけるようなまちづくりというような考えがあるのかないのか。

○　伴都市整備部長

今、進めています中心市街地再編の中で、この中では外部から転勤されてみえる方を対象にこういうことをするとか、市内の方向けにはこういうことをするというすみ分けというか、分けて考えているところはございませんが、例えば市外からの転入者に対しては、いろいろな手当、補助するとか、そういう制度は設けていますので、ちょっとまちづくりの観点で、そういう都会のほうから転勤されてくる方をターゲットにしたまちづくりを進めているという仕分けたところの進め方はしてはございません。

○　笹岡秀太郎委員

やっぱりこの辺、キーワードと違うかなと思って。2027年、リニアが開通して四日市のまちづくりを今、それを起点としてやっていこうとする中で、そういう方向性を出しておるのであれば、やはり中央から、中央というと言い方がおかしいな、都会から四日市に利便性を求めて、あるいは経費の安いまちを求めてきていらっしゃる方がたくさんいるという方向性に今来ておる中で、やはり行政としても、将来を見据えたまちづくりの、やっぱりそういう視点が出てこないと議論もしにくいかなという気がするんやけど、我々議会もね。そういう意味でいうと、ちょっと、今、人口がせっかく、この地域に増えてくる中で、政策誘導の議論がなされておらんというのはちょっと危険かなという気がするので、議会の中でもやるべきかなという思いがありますね。ちょうどこの委員会はええ機会でしたね。

○　樋口龍馬委員長

そうですね。笹岡委員のおっしゃられるとおりだと思うんですね。人が寄ってきました、それで定住が始まるんですけど、定着するかというところになると、前、僕もどこかの場面で言いましたけど、物すごいいっぱい垂坂から、週末に飛行機に乗るためのバスに人が乗ってくるんですよ。何をするかといったら、週末を実家で過ごすんですよね。何で週末を四日市で過ごしてもらえやんのかなというところに、やはり四日市行政は目を向けなきゃいけないのではないかなということは日頃から感じていました。もちろん自分の地元を大切にするというマインドは尊重してしかるべきですけれども、四日市で過ごすという時間をもっともっと持ってもらうことによって、仕事にも定着するだろうし、居住も定着するだろうし、子育ても始まるだろうし、その子供たちがまた四日市に住むだろうしというところまで考えたことをしていくというのが、まさに将来都市像のキーワードになってくるのではないかなと私も感じているところであります。

笹岡委員、よろしいですか。

○　笹岡秀太郎委員

はい。

○　樋口龍馬委員長

他にございますでしょうか。

○　荻須智之委員

夜のお店がだんだん元気がなくなってきている中に、こういうことがあるんです。お店を出て外でがやがややっていると、店主が飛び出してきて、静かにしてください、上を指さすと隣がマンションなんですね。マンションに移ってこられた方は住環境として移ってこられるんですが、何せ四日市で一番にぎやかなところと、このミスマッチは何なんやと思いつつ、その線引きができずに、もうカオス状態になってしまっていると。もうこれは手後れやなというふうに言いながら静かに帰るんですが、多分、飲食もそういう意味では廃れてくると思います、このままマンション開発が進むと。そういう区分け、線引きというのは個人財産でできなかったということで、うまく共存する仕掛けが必要かなと。それも含めて、笹岡委員は今言われていたんやと思うんですけれども、その共存。

それと、風俗業とかそういうのに対する締めつけが厳しいもんで、今、市内の某大手企業に勤める方たちは、週末は泊まりで名古屋へ遊びに行きます。四日市にお金が落ちないから、スナックが土日休みにしたりとか、土日月、休んだりしているんです。そういう事実を踏まえた上では、やはり夜は夜で魅力のあるまちにしていかなあかんなということも感じました。

以上です。

○　樋口龍馬委員長

他にございますか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

多くのご意見を出していただきました。

これは、先ほど言ったように、中心市街地再編という視点ではなくて、にぎわい等に混ぜ込みながら整理をさせていただきたいと思います。

この項については閉じさせていただきます。

ちょっと時間が超過をしてしまって誠に申し訳ないのですが、どうしても確認をしたい事項がございまして、進めさせていただきたいと思います。

ＪＲ四日市駅周辺活性化事業調査特別委員会から報告された13項目の要請に対する現在の対応状況という資料を作成させていただきました。こちらについて確認をしていきたいと思います。これを報告書の中に、私どもはまとめていきたいというふうに考えてございますので、004の資料、ご確認をお願いいたします。

よろしいですか。

ＪＲ四日市駅周辺活性化事業調査特別委員会から報告された13項目の要請について、現在の市の取組状況や課題を調査し、それらに対し、当委員会において確認を行った。

①ＪＲ四日市駅周辺の喫緊の課題。

ＪＲ四日市駅周辺は、小売店、飲食店が少なく、夜間も暗い状況であり、喫緊の課題として、駅前広場への照明の設置や広場の整備等、近鉄四日市駅と並ぶ市の玄関口としての来訪者への対応を行うべしという項目がございました。

現在の対応状況は、これは執行部とも確認をした対応状況であります。

中心市街地再編の中でＪＲ四日市駅前広場を含む周辺の再開発を進める。

当委員会といたしましては、2027年のリニア中央新幹線の開通に向けて、ＪＲ東海やその他の民間事業者と連携してにぎわい創出に向けた取組を進めていく必要があるというふうに指摘をさせていただいて、これを委員会の全体の指摘として確認をさせていただいたところであります。

委員からの意見ということでまとめさせていただいてございます。

ＪＲ四日市駅前は閑散としており、タクシーをつかまえるのにも苦労したという話を聞く。市単独でできることには限りがあり、特ににぎわいの創出には民間の協力が不可欠だが、民間事業者の協力を得るには利益を生み出す仕組みがなければ成り立たない。ＪＲ四日市駅周辺整備をはじめ、官民連携して計画を進めようとする際には、民間事業者の立場をよく理解して行政が主導しなければならないといったご意見があったということを記させていただいてございます。

この１番の課題につきまして、整理、ここは違うよとか、こうしたほうがいいよというご意見があれば賜りたいと思いますが、いかがですか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

この場ではご異議なしというふうにさせていただいて、また後に気づきがあれば集めたいと思いますので、１番についてはこういった形。

○　笹井絹予委員

この2027年のリニア中央新幹線の開通に向けてなんですけど、これは亀山も入るということなんですか。

○　樋口龍馬委員長

いや、東京－名古屋間の話です。

○　笹井絹予委員

東京－名古屋間だけでいいんですね。

○　樋口龍馬委員長

そうです。

○　笹井絹予委員

ありがとうございます。

○　樋口龍馬委員長

これは四日市市が、多分四日市から亀山に行ってリニアに乗るということはないだろうと。要は、亀山に対して嫌な言い方に聞こえてしまったら申し訳ないんですが、こだまとのぞみの違いでございますので、どこに行くにしても一度名古屋に出たほうがアクセスがいいだろうという判断の下、四日市市としては、2027年、東京－名古屋間の開通に向けたまちづくり整備を行っているという理解で、特別委員会のほうも進行しているということであります。

よろしいですか。

○　笹井絹予委員

はい。

○　樋口龍馬委員長

では、②、行きます。貨物列車の入替え時間の見直し。

踏切遮断時間に大きく影響を与える貨物列車の入替えについて、午後８時以降へのスライド化。

現在の対応状況。

ＪＲ貨物及びＪＲ東海へヒアリングを行ったところ、入替え時間を午後８時以降にすると、夜間における線路保守点検の時間確保が困難になるため、入替え時間の見直しはできないと回答があった。ＪＲ四日市駅における自由通路の整備や国道164号の立体交差化の検討を進めている。

当委員会での確認。

ＪＲ四日市駅における自由通路の整備や国道164号の立体交差化の実現に向けて、スピード感を持って取組を進める必要がある。なお、貨物列車の通過の際に長時間踏切が閉鎖している現状を課題と捉え、広い視野で課題解決に当たることというふうにまとめさせていただきましたが、いかがですか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

特になしと認めます。

続きまして、３番、賢い踏切システムの導入。

踏切遮断時間を短縮するため、行政からの財政支援を考慮した、列車速度に対応した踏切システムの導入。

現在の対応状況。

ＪＲ東海へヒアリングを行ったところ、ＪＲ四日市駅には全ての列車が停止することから、仮に賢い踏切を導入したとしても、踏切遮断時間を短縮できる効果はほとんどないため、事業者としては、賢い踏切を導入することは考えていないとの回答であった。ＪＲ四日市駅における自由通路の整備や国道164号の立体交差化の検討を進めている。こういったことで解決をしていきたいと。

当委員会といたしましては、ＪＲ四日市駅における自由通路の整備や国道164号の立体

交差化の実現に向けて、スピード感を持って取組を進める必要がある。なお、貨物列車の通過の際に長時間踏切が閉鎖している現状を課題と捉え、広い視野で課題解決に当たること。

②と近似していますが、非常に課題が近いところですので、このような書きぶりになりました。

委員からの意見として、ＪＲ貨物四日市駅の移転は実現しなかったが、踏切による渋滞発生等の課題は残されている。連続立体交差化や貨物駅移転による経済効果は、机上の計算だけでは計り知れない部分があるというふうに意見が出たというふうに記させていただきましたが、③について、ご意見等ございますか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

今のところはよしというふうに確認をさせていただきます。

４番、ＪＲ四日市駅駅舎の建て替え、駅前広場の整備と有効活用。

ＪＲ四日市駅東側住民の駅へのアクセス方法の改善のための、東西自由通路の設置とともに、東西自由通路と一体化した駅舎の建て替えによる耐震対策とエレベーター設置などのバリアフリー化、駅舎とホームの間の貨物退避線の除去によるホームへのアクセスの改善及び駅前広場の整備による商業利用などの有効活用。

現在の対応状況であります。

ＪＲ東海が駅のバリアフリー化を図るため、平成26年度に駅構内に整備したエレベーター等の施設整備に、国、県、市で協調補助を行い、支援した。ＪＲ四日市駅前への大学などを中心とした施設の立地及び東西自由通路の設置に関して、関係者と協議を進めている。中心市街地再編の中でＪＲ四日市駅前広場を含む周辺の再開発を進める。

当委員会での確認であります。

2027年のリニア中央新幹線の開通に向けて、中央通りの再編や、本市が現在検討している大学の誘致などとも連動させて、人が集まる駅前空間の創出に取り組む必要がある。なお、リニア中央新幹線名古屋駅での乗換えの利便性や運賃においては、ＪＲが近鉄に比べて優位性があり、今後ＪＲ利用者の増加が想定されることを視野に入れたＪＲ東海との協議も必要であるという確認をさせていただきました。

委員からの意見であります。

名古屋のリニア中央新幹線の新駅は、近鉄よりもＪＲ在来線へのアクセスに優れる。ＪＲの優位性が向上することも念頭に入れてまちづくりを進めるべきである。

令和５年４月に近鉄の乗車料金が値上げする予定であり、四日市－名古屋間における近鉄とＪＲの運賃格差がさらに広がる。ＪＲの需要増を見据えた早期の対応も検討すべきと考える。

複線化はＪＲの協力がないと実現できないため、ＪＲ側と意見をすり合わせ、実現可能な方策を模索してほしいという意見がございました。

この④について、皆様、何かございますか。追記すべき点、修正すべき点等があればと思いますが、特段ございませんか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

では、この点についてはこのように確認をさせていただきます。

⑤ＪＲ四日市貨物駅移転用地の一団化。

点在している現用地を土地区画整理手法などによる一団化や一部買い増しを図り、土地活用の幅を広げる。

現在の対応状況。

土地区画整理手法の検討は行ったものの、津波や洪水等の浸水区域であることから、土地の地盤を一定の高さまで上げる必要があり、多額の費用を要することから事業の成立性が低く、一団化は困難である。三重橋垂坂線の整備を進めることで民有地も併せた土地活用も可能であることから、ＪＲ四日市貨物駅移転用地の処分を進め、土地の一団化や利活用を促す。

当委員会での確認です。

ＪＲ東海貨物ヤードの羽津古新田への移転計画が中止となったことに伴い、ＪＲ四日市貨物駅移転用地としての活用は行わないが、土地の利活用の促進を図る必要があるという確認をさせていただきました。

この点について、ご意見等ございますか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

意見なしと認めます。

ＪＲ四日市……、失礼しました。

○　笹岡秀太郎委員

ちょっとこの辺の読み取りが、私が理解していないところがあって、分からないところがあって、教えてほしいんやけど、ＪＲ四日市駅の貨物駅移転用地としての活用はしないけれども、土地の利活用の促進を図る必要があるとなっていますが、まさしくそのとおりなんやけど、今、動いていますよね、これ。この辺はどうなの、聞いてもいいかな。

○　樋口龍馬委員長

確認してください。

三重橋垂坂線も含めた、ほかの土地の利活用についてというところについても持っている情報があれば示していただきたいと思います。

○　伴都市整備部長

この羽津古新田の土地につきましては、まず、三重橋垂坂線の道路事業、これは今、もう事業中として進めてございます。今設計を進めておりまして、あの道路に必要な土地、どの辺りまでかかるかというのを今、それを決めていく作業をしてございます。

それ以外の道路にかからない部分の土地のところですが、ここにつきましては、市の所有地が虫食い状態にあるということで、それ以外の民間所有地の部分のお話ですけど、この部分につきましては、将来というか、これから開発事業者となり得るところが仮登記を、大半の土地を売ったという状況にございます。ただ、今の情報として、どう活用していくという、まだ具体のところについては、私どもにはまだ聞こえてきていないという状況です。

○　笹岡秀太郎委員

あくまでも民間主導で、行政主導ではないというイメージでよろしいかな。その確認だ

け。

○　樋口龍馬委員長

よろしいですか。

民間主導でいって、あくまで行政主導ではないということでよいかということです。

○　伴都市整備部長

そのとおりでございます。

○　樋口龍馬委員長

よろしいですか。

○　笹岡秀太郎委員

そうすると、この書きぶりとしては、行政がどう関わってくるんだろう。促進を図る必要があるけど、行政の関わりとしてはどういう促進策、いわゆる何か助成をするとか、何かそこを活用することによって、行政として何かヘルプすることがあるのかどうか。ただ単に来てください、お手伝いしますよという程度なのかな、促進を図るというと。

○　伴都市整備部長

促進を図るというのは、委員会での確認事項というところで、利活用を促すというところでは、現在の土地のところは出入りが非常にしにくいというところでございますので、土地を利活用するにも、やはりそこへの進入を考えると道路の整備が必要ということで、まず、道路の整備を進めることでそういう利活用もしやすくするということでございます。

○　笹岡秀太郎委員

そうすると、これは委員の意見やけど、これは必要があるけど、それは可能なのか、行政主導で何かお手伝いができることがあるというイメージでいいのかな。例えば、物流機能がそこへ来ました、例えば。そうすると、あそこに交通渋滞が起こる可能性があったりすると、それを緩和する行政策というのが出てくる。そういうお手伝いもやっぱり必要になってくるというところも包含して考えていってもいいのやろうか。これ、委員の意見や

であれやけれども、もしもそういうのが出たら、そういうことは行政として協力できるようなことはあるのやろうか。

○　伴都市整備部長

この部分の土地を活用しようと思いますと、三重橋垂坂線、これに接続するところは、おっしゃられますように、例えば国道23号も渋滞する区間でございますので、渋滞する区間にこういう１本道路を抜くということは、渋滞区間に進入する車もございますが、それで分散が図られるということもございますので、一つここを見ると、そういうところでの対応という考えもできるかなと思いますし、全般をもう少し広く見ると、市内の交通渋滞解消に向けてはいろいろ取り組んでいるというところでございます。

○　笹岡秀太郎委員

委員会の意見ですからこれでええとは思うんですが、念のために確認しておきました。

○　樋口龍馬委員長

よろしいですか、他には、この５番について。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

では、続けさせていただきます。

６番、ＪＲ四日市貨物駅移転用地の利活用。

総務省の土地開発公社経営健全化対策措置要領では、土地開発公社経営健全化計画に基づく債務保証対象土地は、買戻し年次から10年以内に事業の用に供することとなっているため、暫定的な土地利用として、現状に近い状態で土地利用ができ、国の補助事業にも合致するメガソーラー発電設備等への活用。

現在の対応状況です。

暫定的な土地利用を促進することはできなかったが、三重橋垂坂線の整備を進めることで、民有地も併せた土地利用も可能となることから、ＪＲ四日市貨物駅移転用地の処分を進め、土地の利活用を促す。

当委員会での確認になります。

ＪＲ東海貨物ヤードの羽津古新田への移転計画が中止となったことに伴い、ＪＲ四日市貨物駅移転用地としての活用は行わないが、土地の利活用の促進を図る必要がある。

これも、先ほどの５番に非常に近しいところでありますが、このようなよく似た書きぶりになっておるというところであります。

６番について、いかがでしょうか。

笹岡委員、よろしいですか、６番。５番に非常に近いですけれども。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

特にご意見なしというふうに認めます。

７番、三重橋垂坂線の東進化。

貨物駅移転用地の一団化に合わせて、都市計画決定道路である当路線の東進化。

現在の対応状況。

令和２年度から測量業務に着手し、地質調査や関係機関との協議を進めている。

当委員会での確認。

引き続き、現在の取組を進めていく必要がある。

よろしいですか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

８番であります。ＪＲ四日市駅周辺商店街の活性化。

老朽化し、防災上大きな問題のある三和商店街の公営住宅、高齢者施設等集合ビル化による現住高齢者への対応、文化施設の建設。

現在の対応状況です。

現在は駐車場として利用されている。関係者とは令和元年度から意見交換を行っているが、所有者不明の土地があるなど、活用については課題も多い。今後も活用に向け、関係者と協議を進める。

当委員会での確認です。

倒壊の危険性のある建物が解体され、関係者と協議を進めていることを確認した。引き続き、残された課題解決や今後の活用に向けて現在の取組を進める必要があるというふうに確認をさせていただいたところでございます。

この点につきまして、ご意見等ございますでしょうか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

意見なしと認めます。

９番、国道164号の立体交差化。

東西交通の円滑化を図るため当該道路の立体交差化を進める。

対応状況です。

立体交差化の検討を行うとともに、三重県と協議を進めている。

当委員会での確認。

スピード感を持って現在の取組を進める必要がある。国道164号の立体交差化により渋滞の解消が期待できるが、完成までの間の渋滞問題の緩和、解消に向けた取組についても幅広く手法を検討する必要がある。

委員からの意見です。

ＪＲ貨物四日市駅の移転は実現しなかったが、踏切による渋滞発生等の課題は残されている。連続立体交差化や貨物駅移転による経済効果は、机上の計算だけでは計り知れない部分があるというふうに意見が出たというところでございます。

この点につきまして、よろしいですか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

ご意見なしと認めます。

10番、四日市中央線『中央通り』の東進化。

中央通りの東進化により四日市港と四日市中心街を都市軸として結ぶ。国道23号東側地

域は高齢化率が高いことから、ＪＲ四日市駅周辺への徒歩による移動への配慮。

現在の対応状況です。

中央通り再編に合わせて自由通路の整備を進める。

当委員会の確認。

中央通りの再編計画に示されている自由通路の整備は、歩行者の東西の移動の利便性向上が期待できる。中央通りの再編における現在の取組を進めるとともに、さらなる活用策の検討も必要である。

委員会の意見。

ＪＲ貨物四日市駅の上部に空間を設け、道路を通すといった構想も検討してほしいというふうなまとめになっておりますが、よろしいですか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

ご意見なしと認めます。

11番、ＪＲ四日市駅南側阿瀬知踏切への歩道橋の設置。

踏切遮断時間がもっとも長い――１日に５時間37分遮断をしていると――に対して、歩行者対策として歩道橋を設置する。

現在の対応状況です。

歩道橋の設置には至っていないものの、歩行者の安全対策として、平成26年度から平成28年度に近隣の浜田踏切において、踏切前後の歩道整備及び踏切内の歩道部における再舗装を行った。中央通りの再編に合わせて自由通路の整備を進める。

当委員会での確認であります。

スピード感を持って現在の取組を進める必要がある。浜田踏切の歩道の拡幅や自由通路の設置により一定の効果は見込まれるが、ＪＲの路線を挟んだ東西の移動を課題と捉え、他の改善策についても検討する必要があるというふうに確認をさせていただきました。

この件につきまして、よろしいですか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

12番であります。（仮称）『ＪＲ四日市駅周辺活性化まちづくり委員会』の常設化。

ＪＲ四日市駅周辺住民、商店街関係者、地権者、行政等による課題解決に向けた会議体の発足と定期的な開催。

現在の対応状況です。

中央通り再編に係る検討について、周辺自治会や商店街関係者、地権者、行政等協議に地元にも参加していただくほか、三和商店街を含む７番街区とも定期的に意見交換を行っている。関係者とは令和元年度から意見交換会を行っているが、所有者不明の土地があるなど、活用については課題も多い。今後とも活用に向け、関係者と協議を進める。

当委員会での確認。

関係者との協議を進めてきたことを確認した。引き続き、残された課題解決に向けて取組を進める必要があるという確認をさせていただきました。

よろしいですか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

最後、13番です。ＪＲ東海との懇談体制の確保。

行政側の担当窓口を設置するとともに、ＪＲ四日市駅周辺住民と行政及びＪＲ東海との懇談体制の確立。

現在の対応状況です。

平成22年度から、交通事業者、市民、行政等の関係者で構成する四日市市都市総合交通戦略協議会にＪＲ東海も参画し、四日市市都市総合交通戦略を策定した。平成29年度から、近鉄四日市駅周辺等整備基本構想検討委員会にＪＲ東海や周辺自治会が参画し、基本構想を策定した。また、令和２年度からは、中央通り再編関係者調整会議にＪＲ東海や周辺自治会が参画し、基本計画を検討するなど連携を図っている。

当委員会での確認です。

関係者との協議を進めてきたことを確認した。引き続き、中央通り再編や大学の設置などでの連携を図っていく必要がある。

委員からの意見であります。

ＪＲ四日市駅前に大学を誘致するのであれば、ある程度まとまった土地が必要である。ＪＲ東海等が所有する土地を活用させてもらうことについても協議が必要である。

貨物駅の移転や複線化についてはＪＲの協力がなければ実現できないため、ＪＲ側と意見をすり合わせ、実現可能な方策を模索してほしい。

ＪＲ四日市駅は貨物を取り扱う拠点として、ほかの駅と異なる特性を有している事情は理解しているが、市としてＪＲ四日市駅をどうしていきたいのか、先々の形を示し、ＪＲも含めて議論を行っていかなければならない。

ＪＲ四日市駅にあまり人員が配置されておらず、ＪＲに積極性がないように感じる。各種計画を進める中でＪＲの協力も必要となるが、市としてしっかりと要望を伝えてほしい。

13番については以上でございます。

この点につきまして、ここは特に委員からの意見が多く記されておりますが、ご意見等ございますでしょうか。

○　荻須智之委員

この一番最後のところですが、ＪＲに積極性がない。駅員が昼間は２人なんですよね。それで、青森県の五所川原までっていろんなルートがあるんで、券売機だけで買えないので、その人が20分ぐらい陣取ってしまうと切符が買えないということで、非常に苦労しているんです。ＪＲは富田駅を無人化してしまって、もう乗客の利便性というのは切り捨てて、自分のところが黒字化する方向にかじを切っているんですが、本気でやる気があるのやろうかと。だからサービスが悪いから余計に近鉄にお客が流れて悪循環になっているように思うんですけど、ＪＲ東海側の考えはどんな感触かというのをどうやって捉えていらっしゃいますか。駅舎なんて建て替える気、全然ゼロでしょう。どうなんでしょうかね。

○　伴都市整備部長

駅舎の建て替えというところのお話ですけど、確認させてもらったところ、駅舎を建て替えるというお考えはないというのは確認させていただいております。今の駅舎を健全に使っていくための方策というのは考えられているというところは伺っておりますが、建て替えということは確認しておりません。

○　荻須智之委員

となると、大学誘致とかそういうので部分的に開放して、協力してもらったとしても、あまり協力体制が取れるようなふうに受け取れないんですよね。

富田駅も、実際には貨物ヤードはあれだけ要らないし、その気になれば三岐鉄道の所有している土地とＪＲの土地で、近鉄から国道１号までずっとつながっている状態なんですよ。これをうまく活用すれば、四日市駅を富田に移すことも可能だったかなとは思うんですが、もう周りにマンションが建ち出して、それも難しくなっているんですわ。ということで、あそこは結節点で、三岐鉄道と近鉄とＪＲが交わっているという点ではよかった。でも、そっちへ駅を移すと、四日市の旧ＪＲのあたりはもう全く意味がなくなっちゃうので、この場ではそれは絶対ないとは思うんですけれども、ＪＲ自体が肝腎の四日市駅について、もう駅舎は建て替える気はないということがはっきりしているということの上であれば、将来的になくしていくつもりでおるんかなと、その辺どうなんですか。ちらっとそんな話も聞いたことがあるんですが。

○　樋口龍馬委員長

ちょっと、荻須委員。これは、あくまで報告書に対する確認でございますので、もうここでとどめたいと思いますので、最後だけ、伴部長、お願いします。最後だけ。

○　伴都市整備部長

現段階で四日市駅をなくしていく考えがあるというふうなご意見というか、お話を伺ったことはございません。

○　荻須智之委員

ありがとうございました。

○　樋口龍馬委員長

確認事項について、ほかにございますか。

○　笹岡秀太郎委員

先ほど荻須さんがおっしゃった危惧する部分、一番最後の部分やから、市としてしっかり要望を伝えてほしいとなっているけど、もう少し強く何らかの方法で、ちょっと文章を

考えていってくれるといいのかな。例えば、ＪＲに積極性がないように感じるので、市としてしっかりと要望を伝えるとか、これで十分だとは思うんやけど、何かいい方法がもしあるとするならば。荻須さん、どう。

○　荻須智之委員

民間企業になったので、こちらからどうこうということはできないんですけれども、これ、ＪＲの体質が出てきていると思うんですね。新幹線でもうかり過ぎているから、地方切捨てというのは、もうこれははっきり批判が出ているんですよ。ですから、四日市だけでなしに、いろんな市町でＪＲに対してやはり物を言うということが必要なんじゃないかなと。結局、国鉄清算事業団で残した19兆円を我々、国民１人当たり１万円ぐらい、毎年払わされているじゃないですか。その上でのこの大もうけということなので、もう苦々しく思っている人もたくさんおると思いますから、それを忘れずに交渉していただきたいと思います。それだけ要望しておきます。

○　笹岡秀太郎委員

ということは、やはり市として、国あるいは関係省庁に強く要望してほしい、その辺りでどうなの。

○　荻須智之委員

それで結構です。ありがとうございます。

○　樋口龍馬委員長

委員からの意見でありますので、ＪＲへの協力要請を今後も続けていくという部分と、また別ぽつで、期成同盟会等もありますので、そういった協議会を経ながら、国への要望を伝えていくということを追記させていただきたいと思いますが、笹岡委員、それでよろしいですか。

○　笹岡秀太郎委員

総合的にという意味で、それでいいかと思います。

○　樋口龍馬委員長

そのようにさせていただきたいと思います。

すみません、時間が大幅に超過しておりますので、委員が２人、先に退室をしてしまいましたが、この13項目については以上でよろしいですか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

そのようにまとめさせていただきます。

これ、まとめてしまいますと、整理をかけたということになりますので、物によっては、新たな統合をしていくという形に行政側も受け止めるような大きなまとめでありますので、まだ提出には至りませんが、最終報告をまとめるまでの間にお気づきの点があればご指摘をいただきたいというふうに思います。

当時の2010年の委員会を再度招集してということはできませんので、どこかで解決をして整理をしていかなきゃいけない部分でありますので、場合によっては、課題であったりとか要望であったりというところの解決をこの場で図っていく部分が見られる可能性があるということは念頭に置いていただきたいと思います。

最後であります。お時間、もう少しいただきます。

まとめをしていきたい、本日で委員間討議については一旦終結をさせていただきたいと思います。まとめをつくっていきたいと思っておるんですが、私たち、結局、ここまで討議してきた内容というのは、将来都市像をどうするのという話をしてきたわけです。港を活用したまちづくりだったり、公共交通がしっかりとしたまちづくりであったり、にぎわいのあるまちづくり、若者がとかという話がある中で、じゃ、一体どんな都市像に仕上げていきますかという論点整理をしてまいりまして、五つの論点に本日までに整理ができたわけであります。

議論をこうやって進めていくと、まさにこういうことを言いたいんだよねという確信的なご意見も出てきていながらも、それを形にまとめるということが、この年度の中では難しいのではないかと、今、正副では判断をしております。引き続き議論をしていく、理解を深めていくという項目も出てまいりましょうし、五つに絞られたという点でも一つ落ちていますので、そういう点では論点がかなり絞られてきているのではないかなというふう

に感じているところでありますが、この将来都市像をどのように示すのか。例えば一つのキーワードで示すのか、まちづくり宣言みたいなものをしていきましょうという話をしていくのか、将来都市像宣言みたいなものをしましょうという話なのか、まちづくり憲章をつくりましょうというと、ちょっとあまりにも話が大きいのかなというふうに思うんですが、条例をつくりましょうというのもちょっと似合わないのかなと、そういったことも含めて議論、検討していこうと思うと、私の技量ですと、どう頑張っても５回はかかってしまうんです。今から５回やるとなると、なかなか厳しいかなというところがございまして、可能であれば、新体制において継続的にこの特別委員会の設置の依頼をかけながら、将来都市像を形としてつくってくるということを全体に戻していく、そんな整理のまとめをしたいなというふうに正副では考えておるんですが、皆様、これについてのご意見があれば賜りたいと思いますし、ご賛同いただけるのであれば、力強く異議なしと言っていただいたらそのようにまとめますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

自分としては、ここまでやってきたので、行きたい気持ちはないわけではないんですが、ちょっとさすがに３月の中旬まで委員会がかかるというのは現実的ではないのかなというふうに考えるところがありまして、そのような方向でまとめをさせていただいて、皆様にお示しをさせていただくということで確認を取らせていただきました。確認を取らせていただきまして、我々が報告書の作成を行って、その報告書を事前に配信させていただいた上で、確認の日程を短時間で設けさせていただきたいというふうに考えております。

そこで、今後の日程の案なのでございますが、申し訳ございませんが、井上委員におかれましては早川委員に、副委員長におかれましては森委員に確認をいただきたいと思いますが、12月19日に予算常任委員会が予定をされております。この予算常任委員会の終了後に、委員長がお許しをいただければ、村山予算常任委員長に確認を取らなきゃいけないんですけれども、お許しをいただくことを一つの前提といたしまして、予算常任委員会終了後に実施をさせていただきたいなと。これについては、場合によっては時間のほうが、午後５時まで予算常任委員会が展開するということも、もちろん委員会の権能としてありますので、展開した場合は少し後ろに時間が押し込んでしまうということも含めまして、委

員の皆様がご協力いただけるということであれば、予算常任委員会終了後に設定をしたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。

（異議なし）

○　樋口龍馬委員長

村山委員長には誠心誠意お願いをしてまいる所存でございます。

もし、これが大紛糾をしてしまって、とてもじゃないけど特別委員会どころじゃないぞとなった場合の予備日を置かせていただきたいと思います。令和５年１月20日金曜日午前11時という時間をご予定いただければと思います。ただ、これは、極力そうならんようにというふうには思っておるんですが、いかんせん予算の審査がございますので。ちなみに１月20日は議員説明会が予定をされておる日程でございますので、その午前中ということになります。いずれの会議日程となりましても、おおむね１時間までを一つの基準とさせていただきたいと存じますので、よろしくお願いをいたします。

事務局から何かありますか。特にございませんか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

皆様のほうから何かございますか。

（なし）

○　樋口龍馬委員長

ございませんね。

では、大変長蛇になりましたけれども、本日の会議はこの程度とさせていただきます。

理事者の皆さんにおかれましても、お疲れさまでございました。委員の皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。

１６：１７閉議